

(様式第10)

徳大院総第75号

令和 7年 10月 3日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人徳島大学  
学長 河村 保彦

徳島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒770-8501 徳島県徳島市新蔵町2丁目24番地
氏名	国立大学法人徳島大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

徳島大学病院
--------

3 所在の場所

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町2丁目50番地の1
電話(088)631-3111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科					有		
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科		2消化器内科	○	3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	病理診断科	3	リハビリテーション科	4	脳神経内科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41	8	0	0	643	692

(単位: 床)

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	276	149	371.6	看護補助者	63	診療エックス線技師	0
歯科医師	97	76	128.3	理学療法士	16	臨床検査技師	57
薬剤師	50	0	50	作業療法士	7	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	7	その他	0
助産師	44	1	44.9	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	707	20	722.2	臨床工学士	20	医療社会事業従事者	10
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	50
歯科衛生士	12	6	25.4	歯科技工士	8	事務職員	166
管理栄養士	12	1	12.8	診療放射線技師	44	その他の職員	6

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	85	眼科専門医	11
外科専門医	36	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	9	放射線科専門医	28
小児科専門医	23	脳神経外科専門医	15
皮膚科専門医	4	整形外科専門医	22
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	17
産婦人科専門医	15	救急科専門医	4
		合計	291

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 西良 浩一 ) 任命年月日 令和 7 年 4 月 1 日

リスクマネジメント委員会委員長

## 9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	507 人	11 人	518 人
1日当たり平均外来患者数	1,511 人	436 人	1,947 人
1日当たり平均調剤数	入院 451.2剤、 外来 32.3剤		
必要医師数	139 人		

必要歯科医師数	24	人
必要薬剤師数	18	人
必要(准)看護師数	324	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

#### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	225.5 m <sup>2</sup>		病床数	11 床	心電計	
			人工呼吸装置		心細動除去装置	
			その他の救急蘇生装置		ペースメーカー	
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	495	m <sup>2</sup>	病床数	28 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	63			m <sup>2</sup>
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	72 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動分注装置、生化学分析装置		
細菌検査室	259 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物薬剤感受性分析装置、抗酸菌培養装置、細菌検査装置		
病理検査室	357 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動免疫染色装置、SL医用写真撮影装置		
病理解剖室	161 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、スケール付ストレッチャー		
研究室	257 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	マルチスライスCT、四肢用MRI、回診用X線装置		
講義室	982 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	28 室	収容定員	630 人
図書室	75 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	8,500 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	79.2	%	逆紹介率	68.7	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		15,771 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		14,053 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		431 人		
	D: 初診の患者の数		20,455 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

## 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
三宅 秀則	徳島市病院局・病院事業管理者	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	無	1
柴谷 亮	柴谷法律事務所・弁護士		法律に関する識見を有するため	無	1
上田 伊佐子	徳島文理大学保健福祉学部・教授		医療安全管理についての知識を有し、医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受ける者の立場から意見を述べる事ができる者(学識経験を有する者)	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

## 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
徳島大学、徳島大学病院のホームページにて公表	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

[illegible]

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	1人
アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	1人
反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病(急性期において当該療法が実施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	3
取り扱い患者数の合計(人)	2人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

疾 患 名		患者数	疾 患 名		患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	16	76	バッド・キアリ症候群	2
2	筋萎縮性側索硬化症	120	77	特発性門脈圧亢進症	2
3	脊髄性筋萎縮症	1	78	原発性胆汁性肝硬変	31
4	原発性側索硬化症	1	79	原発性硬化性胆管炎	5
5	進行性核上性麻痺	63	80	自己免疫性肝炎	18
6	パーキンソン病	312	81	クローン病	110
7	大脳皮質基底核変性症	26	82	潰瘍性大腸炎	204
8	ハンチントン病	2	83	好酸球性消化管疾患	1
9	神経有棘赤血球症	1	84	全身型若年性特発性関節炎	6
10	シャルコー・マリイ・トゥース病	12	85	非典型性溶血性尿毒症症候群	1
11	重症筋無力症	165	86	先天性ミオパチー	2
12	多発性硬化症／視神経脊髄炎	112	87	筋ジストロフィー	20
13	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多発性運動ニューロパチー	63	88	脊髄空洞症	1
14	封入体筋炎	9	89	遺伝性ジストニア	1
15	クロウ・深瀬症候群	4	90	脳表ヘモジデリン沈着症	1
16	多系統萎縮症	53	91	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1
17	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	91	92	前頭側頭葉変性症	9
18	ライソゾーム病	4	93	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1
19	副腎白質ジストロフィー	1	94	先天性無痛無汗症	1
20	ミトコンドリア病	1	95	アレキサンダー病	1
21	もやもや病	70	96	限局性皮質異形成	2
22	プリオン病	8	97	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1
23	進行性多発性白質脳症	1	98	レノックス・ガストー症候群	3
24	HTLV-1関連脊髄症	6	99	早期ミオクロニー脳症	1
25	全身性アミロイドーシス	59	100	環状2番染色体症候群	1
26	遠位型ミオパチー	1	101	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1
27	神経線維腫症	31	102	レット症候群	1
28	天疱瘡	23	103	結節性硬化症	6
29	表皮水疱症	2	104	家族性良性慢性天疱瘡	1
30	膿疱性乾癬(汎発型)	20	105	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	23
31	スティーヴンス・ジョンソン症候群	7	106	特発性後天性全身性無汗症	5
32	高安静脈炎	15	107	弾性線維性仮性黄色腫	1
33	巨細胞性動脈炎	7	108	マルファン症候群／ロイス・ディーツ症候群	1
34	結節性多発動脈炎	8	109	ウィルソン病	1
35	顕微鏡的多発血管炎	39	110	クルーゾン症候群	1
36	多発血管炎性肉芽腫症	21	111	ウェルナー症候群	2
37	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	25	112	ブラダー・ウィリ症候群	2
38	悪性関節リウマチ	5	113	単心室症	4
39	パージャール病	5	114	ファロー四徴症	4
40	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	115	両大血管弓室起始症	2
41	全身性エリテマトーデス	239	116	エプスタイン病	1
42	皮膚筋炎／多発性筋炎	123	117	アルポート症候群	2
43	全身性強皮症	96	118	急速進行性糸球体腎炎	13
44	混合性結合組織病	46	119	抗糸球体基底膜腎炎	2
45	シェーグレン症候群	81	120	一二次性ネフローゼ症候群	80
46	成人発症ステル病	12	121	一二次性膜性増殖性糸球体腎炎	2
47	再発性多発軟骨炎	6	122	紫斑病性腎炎	5
48	ベーチェット病	49	123	間質性膀胱炎(ハンナ型)	8
49	特発性拡張型心筋症	64	124	オスラー病	1
50	肥大型心筋症	29	125	肺胞低換気症候群	8
51	再生不良性貧血	19	126	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	6
52	自己免疫性溶血性貧血	6	127	フェニルケトン尿症	2
53	特発性血小板減少性紫斑病	32	128	高チロシン血症3型	1
54	原発性免疫不全症候群	8	129	プロピオン酸血症	1
55	IgA 腎症	59	130	メチルマロン酸血症	2
56	多発性嚢胞腎	58	131	グルタル酸血症1型	1
57	黄色靱帯骨化症	55	132	ボルフィリン症	1
58	後縦靱帯骨化症	122	133	筋型糖原病	1
59	広範脊柱管狭窄症	11	134	家族性地中海熱	4
60	特発性大腿骨頭壊死症	48	135	強直性脊椎炎	6
61	下垂体性ADH分泌異常症	17	136	後天性赤芽球癆	1
62	下垂体性TSH分泌亢進症	1	137	自己免疫性出血病XIII	2
63	下垂体性PRL分泌亢進症	7	138	クロンカイト・カナダ症候群	2
64	クッシング病	9	139	胆道閉鎖症	2
65	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	22	140	IgG4関連疾患	16
66	下垂体前葉機能低下症	70	141	若年発症型両側性感音難聴	1
67	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2	142	遅発性内リンパ水腫	1
68	先天性副腎皮質酵素欠損症	2	143	好酸球性副鼻腔炎	61
69	サルコイドーシス	101	144	大理石骨病	3
70	特発性間質性肺炎	112	145	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
71	肺動脈性肺高血圧症	20	146	特発性多中心性キャスルマン病	7
72	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1	147	ネフロン癆	1
73	慢性血栓性肺高血圧症	17	148	ホモシステニン尿症	2
74	リンパ脈管腫症	2	149	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	1
75	網膜色素変性症	12			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	149
合計患者数(人)	3,699

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・ハイリスク分娩等管理加算
・歯科外来診療感染対策加算4	・術後疼痛管理チーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1入院基本料) 精神病棟(10対1入院基本料)	・病棟薬剤業務実施加算2
・救急医療管理加算	・データ提出加算
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算
・診療録管理体制加算1	・認知症ケア加算【加算2】
・医師事務作業補助体制加算2	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・急性期看護補助体制加算	・精神疾患診療体制加算
・看護職員夜間配置加算	・排尿自立支援加算
・療養環境加算	・地域医療体制確保加算
・重症者等療養環境特別加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・無菌治療室管理加算1	・特定集中治療室管理料2
・無菌治療室管理加算2	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・新生児特定集中治療室管理料2
・緩和ケア診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 1 母体・胎児集中治療室管理料
・小児緩和ケア診療加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・小児入院医療管理料2
・摂食障害入院医療管理加算	・短期滞在手術等基本料1
・栄養サポートチーム加算	・看護職員処遇改善評価料
・医療安全対策加算1	
・感染対策向上加算1	
・患者サポート体制充実加算	

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・医療機器安全管理料(歯科)
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・歯科治療時医療管理料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・在宅患者歯科治療時医療管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・がん患者指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・外来緩和ケア管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・移植後患者指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・小児運動器疾患指導管理料	・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
・婦人科特定疾患治療管理料	・染色体検査の注2に規定する基準
・腎代替療法指導管理料	・骨髓微小残存病変量測定
・一般不妊治療管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・生殖補助医療管理料1	・がんゲノムプロファイリング検査
・下肢創傷処置管理料	・先天性代謝異常症検査
・外来放射線照射診療料	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・外来腫瘍化学療法診療料1	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・連携充実加算	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ニコチン依存症管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
・がん治療連携計画策定料	・検体検査管理加算(Ⅰ)
・外来排尿自立指導料	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・国際標準検査管理加算
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・遺伝カウンセリング加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・こころの連携指導料(Ⅱ)	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・薬剤管理指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・医療機器安全管理料1	・胎児心エコー法
・医療機器安全管理料2	・ヘッドアップティルト試験

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

・人工臓器検査、人工臓器療法	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・外来化学療法加算1
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・無菌製剤処理料
・単線維筋電図	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・脳波検査判断料1	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・神経学的検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・補聴器適合検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・全視野精密網膜電図	・がん患者リハビリテーション料
・ロービジョン検査判断料	・歯科口腔リハビリテーション料2
・小児食物アレルギー負荷検査	・経頭蓋磁気刺激療法
・内服・点滴誘発試験	・通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算
・経頸静脈的肝生検	・認知療法・認知行動療法1
・CT透視下気管支鏡検査加算	・精神科作業療法
・経気管支凍結生検法	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・口腔細菌定量検査	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・有床義歯咀嚼機能検査1のイ	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・医療保護入院等診療料
・有床義歯咀嚼機能検査2のイ	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	・多血小板血漿処置
・精密触覚機能検査	・硬膜外自家血注入
・睡眠時歯科筋電図検査	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・画像診断管理加算1	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・歯科画像診断管理加算1	・人工腎臓
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・CT撮影及びMRI撮影	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・冠動脈CT撮影加算	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・心臓MRI撮影加算	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

・ストーマ合併症加算	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・手術用顕微鏡加算	・人工中耳植込術
・う蝕歯無痛の窩洞形成加算	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・耳管用補綴材挿入術
・光学印象	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
・CAD／CAM冠及びCAD／CAMインレー	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・歯科技工加算1及び2	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・センチネルリンパ節加算⇒皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・椎間板内酵素注入療法	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・腫瘍脊椎骨全摘術	・乳癌センチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・乳癌センチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便過活動膀胱)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・気管支バルブ留置術
・角膜移植術(内皮移植加算)	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・網膜再建術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下胃縮小術
・胸腔鏡下弁形成術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮の大動脈弁置換術)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)	・腹腔鏡下肝切除術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	・生体部分肝移植術
・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・補助人工心臓	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・経皮的下肢動脈形成術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・同種死体腎移植術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・生体腎移植術
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	・歯科麻酔管理料
・精巣温存手術	・放射線治療専任加算
・精巣内精子採取術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・一回線量増加加算
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下仙骨腫固定手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・胎児輸血術及び臍帯穿刺	・デジタル病理画像による病理診断
・体外式膜型人工肺管理料	・病理診断管理加算2
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	・口腔病理診断管理加算2
・輸血管理料Ⅰ	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・輸血適正使用加算	・歯科矯正診断料
・同種クリオプレシビテート作製術	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・看護職員処遇改善評価料(1～165)
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・歯周組織再生誘導手術	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・手術時歯根面レーザー応用加算	・入院ベースアップ評価料(1～165)
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・歯根端切除手術の注3	
・レーザー機器加算	
・麻酔管理料(Ⅰ)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	15回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	13例
	剖検率(%)	6.60%

)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こ  
(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
性差にもとづく更年期障害の解明と両立支援開発の研究	安井 敏之	産科婦人科	¥10,000,000	補委	厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における医療水準並びに患者QOLの向上のための調査研究	島田 光生	消化器・移植外科	¥300,000	補委	厚生労働省
行動科学を基盤とした科学的根拠に基づく臓器・組織移植啓発モデルの構築に関する研究	島田 光生	消化器・移植外科	¥250,000	補委	厚生労働省
痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	松香 芳三	かみあわせ補綴科	¥500,000	補委	厚生労働省
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	和泉 唯信	脳神経内科	¥800,000	補委	厚生労働省
神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者のQOL向上に資する研究	和泉 唯信	脳神経内科	¥550,000	補委	厚生労働省
運動失調症の医療水準、患者QOLの向上に資する研究班	和泉 唯信	脳神経内科	¥700,000	補委	厚生労働省
びまん性肺炎患に関する調査研究	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科	¥1,000,000	補委	厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	原田 雅史	放射線診断科	¥200,000	補委	厚生労働省
もやもや病(ウィリス動脈輪閉塞症)における難病医療体制の整備や患者のQOL向上に資する研究	高木 康志	脳神経外科	¥500,000	補委	厚生労働省
放射線療法の提供体制構築に資する研究	生島 仁史	放射線治療科	¥300,000	補委	厚生労働省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	原田 雅史	放射線診断科	¥800,000	補委	厚生労働省
高次脳機能障害の診療に係る実態把握と課題の検討のための研究	高木 康志	脳神経外科	¥1,100,000	補委	厚生労働省
育成医療対象疾患の実態把握に関する研究	渡邊 佳一郎	矯正歯科	¥300,000	補委	厚生労働省
様々な状況での肝炎ウイルス感染予防・重症化・再活性化予防の方策に資する研究	河野 豊	消化器内科	¥400,000	補委	厚生労働省
小児から成人期発症遺伝性QT延長症候群とその類縁疾患の突然死予防に関する研究	早渕 康信	地域小児科診療部	¥100,000	補委	厚生労働省
小児科から成人の消化管過誤腫性腫瘍好発症候群の医療水準とQOL向上のための研究	岡本 耕一	消化器内科	¥100,000	補委	厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	三木 浩和	血液内科	¥200,000	補委	厚生労働省
数値流体力学的解析の導入による先天性気管狭窄症の手術水準向上	上田 公子	小児歯科	¥65,000	補委	文部科学省
感覚機能と社会的繋がりに着目したフレイル発症・進展モデルと口腔機能管理戦略の確立	渡邊 恵	そしゃく科	¥130,000	補委	文部科学省
胎児エプスタイン病に対する胎児治療導入に向けた全国調査	加地 剛	周産母子センター	¥65,000	補委	文部科学省
リアルワールドデータとゲノミクスの統合解析を通じた免疫療法誘発心筋炎の発症予測	新村 貴博	総合臨床研究センター	¥130,000	補委	文部科学省
免疫チューニング分子を基盤とした自己免疫疾患の新たな病因論の確立と治療戦略	石丸 直澄	病理部	¥10,790,000	補委	日本学術振興会
SGLT-2阻害薬による大動脈解離発症予防効果の検討	近藤 正輝	薬剤部	¥470,000	補委	日本学術振興会
血管新生阻害剤の有害事象として発症する大動脈解離の分子機序解明	辻中 海斗	薬剤部	¥470,000	補委	日本学術振興会

遺伝子改変モデルマウスを用いた免疫チェックポイント阻害剤関連連筋炎の病態解明研究	運天 拓人	薬剤部	¥470,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性腎症進行抑制薬の開発を目的としたドラッグリポジショニング研究	石田 俊介	薬剤部	¥470,000	補委	日本学術振興会
染色体不安定性に着目した大腸癌の抗癌剤耐性機序の解析	高山 哲治	消化器内科	¥3,900,000	補委	日本学術振興会
遺伝子改変マウスと未固定遺体を用いた動脈硬化の新規の病態解明と治療法の開発	佐田 政隆	循環器内科	¥4,160,000	補委	日本学術振興会
肺がん・中皮腫における新たな抗原提示細胞の同定から革新的複合がん免疫療法への展開	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科	¥5,070,000	補委	日本学術振興会
オルガノイドを用いた脂肪由来幹細胞からの超高機能肝細胞様細胞の確立	島田 光生	消化器・移植外科	¥5,070,000	補委	日本学術振興会
口腔顔面痛に対するBH4代謝経路活性と新規治療法の基盤形成	松香 芳三	かみあわせ補綴科	¥3,120,000	補委	日本学術振興会
定量プロテオミクスが紐解く新規タンパク質複合体によるHPV陽性癌の新たな病因論	常松 貴明	病理部	¥3,380,000	補委	日本学術振興会
サルコペニアの診断と発症予防法の開発を目指した基盤・応用研究	阪上 浩	栄養部	¥4,160,000	補委	日本学術振興会
Exosomeエンジニアリングによる肺癌とその微小環境の改変を標的とする治療法の開発	佐藤 康史	消化器内科	¥6,370,000	補委	日本学術振興会
骨細胞保護によるがんの骨転移新規治療戦略の開発	日浅 雅博	矯正歯科	¥3,900,000	補委	日本学術振興会
NALT樹状細胞標的型粘膜アジュバントの免疫老化レジリエンス機序解明のための基盤構築	片岡 宏介	歯科衛生室	¥5,980,000	補委	日本学術振興会
デジタル技術を活用したミュージックスプリントの革新:木管楽器奏者の口腔問題対策	武川 大輔	むし歯科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
デジタルサイエンスを応用した抗がん剤関連性末梢神経障害治療薬の創出	相澤 風花	薬剤部	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
抗VEGF療法の治療効果向上を目指した最適な支持療法薬の解明	八木 健太	総合臨床研究センター	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
ヘパラーゼ制御によるhot tumor誘導と新規がん複合免疫療法への創出	尾崎 領彦	呼吸器・膠原病内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
第5世代シークエンサーを用いた統合失調症のDNAメチル化修飾異常の同定研究	沼田 周助	精神科神経科・心身症科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
アルツハイマー型認知症患者の脳磁化率と脳血流の関連研究	中瀧 理仁	精神科神経科・心身症科	¥780,000	補委	日本学術振興会
質量分析イメージングによる薬剤性間質性肺炎の病態解析および新規診断法の開発	佐藤 正大	呼吸器・膠原病内科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
ALアミロイドーシスにおける単球に着目した疾患関連遺伝子と新規治療標的の探索	中村 信元	血液内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
肺微小環境内リソリン脂質制御に基づく抗線維化療法の開発	河野 弘	呼吸器・膠原病内科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
Gut-brain axisからみたMetabolic surgeryの血糖抑制効果	柏原 秀也	消化器・移植外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
薬剤耐性トリプルネガティブ乳癌に対するmiRNA-433-3p補充療法の可能性	笹 聡一郎	食道・乳腺甲状腺外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
青色光の大腸癌と腫瘍微小環境への抗腫瘍効果およびabscopal効果に関する研究	良元 俊昭	消化器・移植外科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
肺切除に用いる近赤外蛍光樹脂マイクロコイルの研究開発	滝沢 宏光	呼吸器外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
歯周炎症と体血管障害へのプロバイオティクス及び麻酔薬の効果と細胞骨格制御の役割	川人 伸次	歯科麻酔科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
関節面形状を再現したオーダーメイド人工膝関節は健常膝関節動態を再現するか？	和田 佳三	整形外科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
LED光による転移性骨腫瘍の新規治療開発	西庄 俊彦	整形外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会

花粉症に対する初期療法のインバースアゴニスト作用の解明と投与法の最適化研究	北村 嘉章	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
鯨油由来の脂肪酸成分による免疫細胞誘導療法を目指した眼炎症抑制療法の開発	柳井 亮二	眼科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
再生環境下での休眠状態・若返り間葉系幹細胞の歯周組織再生療法と全身疾患への応用	湯本 浩通	歯周病科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
ロバストネス最適化を基盤とした天然物由来アルカロイドを用いた歯周治療の開発	稲垣 裕司	歯周病科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
嚥下機能を向上させるための安全かつ簡便で有効性の高い口蓋形成方法の確立	永尾 寛	そしゃく科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
唾液中miRNAの探索による金属アレルギーの病態解明と新たな検査法の確立	細木 真紀	かみあわせ補綴科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
歯科用金属アレルギー発症機序におけるγδ T細胞の役割	渡邊 恵	そしゃく科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
ヒアルロン酸合成阻害剤による口腔癌のBcl2発現増強を標的とした老化細胞除去療法	栗尾 奈愛	口腔外科	¥2,860,000	補委	日本学術振興会
頸部リンパ節転移の超早期診断の挑戦-転移可視化モデルの樹立と超音波診断法の構築	高橋 章	口腔外科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
腫瘍ウイルスの共感染は口腔癌のField cancerizationに関与しているか？	北村 直也	総合歯科診療部	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
がん抑制型microRNAの経皮投与による新規治療法の開発	上杉 篤史	口腔外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
ダウン症児のCBCTを用いた舌の形態と筋組織ならびに呼吸からみた包括的新規解析	中川 弘	小児歯科	¥3,380,000	補委	日本学術振興会
新しい歯科用排気システムの構築～効果的なエアロゾル・微細粒子の飛散防止法の確立～	水頭 英樹	歯科放射線科	¥3,120,000	補委	日本学術振興会
体外衝撃波が断断性骨軟骨炎の修復を最も促進させるプロトコルの確立	松浦 哲也	リハビリテーション部	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病関連疾患における機能的脳ネットワークマーカーの開発	藤田 浩司	脳神経内科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
MATE型輸送体を標的とするシスプラチン誘発腎障害予防戦略の開発	神田 将哉	薬剤部	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
骨分化誘導を基盤とした骨肉腫の新規治療開発	竹内 誠	整形外科	¥2,860,000	補委	日本学術振興会
肺癌の診断マーカーとなるexosome内のmiRNAモデルの開発	岡田 泰行	消化器内科	¥3,640,000	補委	日本学術振興会
オルガノイドを用いた左右大腸癌の分子異常解析に基づく新規治療薬の開発	影本 開三	消化器内科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
LEDを使用した副甲状腺自家蛍光イメージング機器の開発	三崎 万理子	食道・乳腺甲状腺外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
活動量計を用いた入院がん患者の転倒予測因子の検証および予防プログラムの開発	佐藤 紀	リハビリテーション部	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
全内視鏡下腰椎椎体間固定術の発展に向けて	森本 雅俊	整形外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
ナローバンドUVBの鼻腔内照射によるアレルギー性鼻炎の治療	神村 盛一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
味覚刺激に着目した新たな認知機能トレーニングの開発と検証	岸本 卓大	総合歯科診療部	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
糖尿病関連歯周炎の歯周治療による糖尿病改善効果を指背毛細血管を用いて可視化する	美原 智恵	総合歯科診療部	¥130,000	補委	日本学術振興会
睡眠時低血糖とブラキシズムの関係	大倉 一夫	かみあわせ補綴科	¥780,000	補委	日本学術振興会
microRNAを用いた金属アレルギーによる口腔扁平苔癬の新規診断マーカーの確立	田島 登誉子	かみあわせ補綴科	¥260,000	補委	日本学術振興会
高齢者の肺炎および口臭予防を目的とした新規口腔環境改善手法の確立	福井 誠	歯科衛生室	¥1,300,000	補委	日本学術振興会

診療参加型臨床実習に必要とされる汎用的能力の研究	赤池 雅史	循環器内科	¥650,000	補委	日本学術振興会
Deep learningを用いた胸部X線画像における肺高血圧病態分類の取り組み	渡部 有紀奈	検査部	¥650,000	補委	日本学術振興会
腫瘍内免疫療法を用いた新規複合がん免疫療法の効果規定因子を同定する試み	荻野 広和	呼吸器・膠原病内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
フィトケミカル含有食品エソウコギによる、新しいNAFLD/NASH治療法の開発	河野 豊	消化器内科	¥650,000	補委	日本学術振興会
軟部腫瘍のアミノ酸代謝解析とアミドプロトン解析に着目したマルチ分子イメージング	新家 崇義	放射線診断科	¥910,000	補委	日本学術振興会
放射線治療後の心筋障害に対する早期の定量的評価法の確立と心不全の予知	音見 暢一	放射線診断科	¥650,000	補委	日本学術振興会
鋸歯状ポリボロシス症候群の左側及び右側大腸癌の分子生物学的差異の解析	岡本 耕一	消化器内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎における新規病態制御因子の臨床的意義と分子機構の解明	栗飯原 賢一	内分泌・代謝内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
腎NMN輸送体を介した遠位・近位尿管管連関の解明	長谷川 一宏	腎臓内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
RNA編集酵素ADARが司る骨髄腫の進展様式と免疫逃避機構の解明	原田 武志	血液内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
脂肪幹細胞由来Schwann様細胞の骨盤内臓神経再生促進効果に関する研究	徳永 卓哉	消化器・移植外科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
自己脂肪由来インスリン産生細胞自家移植における抗原性発現と細胞運命の研究	池本 哲也	消化器・移植外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
NASHにおける肝転移抑制の機序解明に関する研究	山田 眞一郎	消化器・移植外科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
Nr2を介したTAM-cancerクロストークによる肝癌薬剤耐性機序の解明	高須 千絵	消化器・移植外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
人工知能を用いた食道癌の気管・気管支浸潤の診断—診断基準の確立—	藤原 聡史	食道・乳腺甲状腺外科	¥780,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞から誘導した気管支肺胞幹細胞～その性格とオルガノイドを用いた肺再生研究	鳥羽 博明	呼吸器外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬のSirtを介した心筋保護作用に対して高血糖状態与える影響	角田 奈美	麻酔科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
脳動静脈奇形における血管内皮のKRAS変異とPAD4活性化の関係	高木 康志	脳神経外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
糖尿病網膜症の病因におけるCdk5/ERK回路の役割	三田村 佳典	眼科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
乳酸菌由来細胞外小胞を用いた歯周病治療戦略—M1/M2マクロファージに着目して—	細川 育子	むし歯科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
ポリフェノール内包キトサンナノカプセルを用いた口腔バイオフィルム抑制技術の開発	尾崎 和美	むし歯科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
ワサビ含有成分を歯周炎治療に用いるための基礎的研究～抗炎症作用に着目して～	細川 義隆	むし歯科	¥780,000	補委	日本学術振興会
歯科用レジンセメントの通電剥離は万能カー導電性の向上と維持—	武川 恵美	高次歯科診療部	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
口腔顔面痛モデル動物の精油の嗅覚刺激による痛み刺激の軽減と脳神経メカニズムの解明	井上 美穂	かみあわせ補綴科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
歯科再生医療の実現に向けた再生器官サイズ・形態形成の分子メカニズムの解明と応用	大島 正充	かみあわせ補綴科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
免疫細胞フェノタイプによるシェーグレン症候群の個別化医療の構築	青田 桂子	口腔内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
口腔顔面痛の治療成績を向上する試み—照明の照度・色調は治療成績に影響するのか？—	桃田 幸弘	口腔内科	¥780,000	補委	日本学術振興会
小児鼻腔通気障害に対する歯科の治療法の開拓と治療効果の検討	北村 尚正	小児歯科	¥780,000	補委	日本学術振興会

オゾン水の歯科医療環境感染予防対策実用化に向けた研究	渡辺 朱理	歯科衛生室	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
ゲーム障害児・者の脳血流動態に関する研究－NIRSによる脳機能評価－	森 健治	小児科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
OSA患者のいびきの周波数解析から発生メカニズム解明と新たな口腔内装置開発の試み	安陪 晋	総合歯科診療部	¥390,000	補委	日本学術振興会
腹水濾過濃縮再静注法の発熱機序の解明と発熱予防法の確立	岡久 稔也	消化器内科	¥520,000	補委	日本学術振興会
リアルワールドデータを活用した薬剤性腎障害に対する新規予防戦略の開発	合田 光寛	薬剤部	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
がん由来エクソソームによる筋細胞内代謝制御の解明とがん悪液質の克服	布川 朋也	泌尿器科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
腫瘍内線維細胞における時計遺伝子の機能解析と新規複合がん免疫療法開発への応用	三橋 惇志	呼吸器・膠原病内科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病における $\alpha$ -シヌクレイン凝集機序の解明と新規治療への応用	森野 豊之	ゲノム医療センター	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
ジストニア新規遺伝子機能の解明	宮本 亮介	脳神経内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
ラジオミクス画像解析に基づく新たな放射線治療戦略構築に資する研究	生島 仁史	放射線治療科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
フォンタン循環症例の肺血管病変における血管外膜およびvasa vasorumの影響と治療応用	早渕 康信	地域小児科診療部	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
IL-33経路に着目した慢性肺疾患治療開発のための基盤研究	須賀 健一	地域小児科診療部	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
3歳児検尿における慢性腎臓病と先天性腎尿路奇形の新規バイオマーカーの開発	漆原 真樹	小児科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
AIを用いた切除可能肝癌に対する化学療法最適化を予測するためのmiRNAモデルの開発	宮本 弘志	消化器内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
多元的フェロトシス治療に基づく慢性腎臓病治療戦略の開発	田蒔 昌憲	腎臓内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
脂肪由来幹細胞ADSCから誘導した肝細胞様細胞HLCの免疫原性獲得に関する研究	齋藤 裕	消化器・移植外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
腫瘍微小環境におけるexosomal micro RNA-Nrf2 addictionの機序解明と治療法の確立	森根 裕二	消化器・移植外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬治療時におけるhyperprogressinのメカニズムの解明	吉川 幸造	消化器・移植外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞から誘導した気管支肺胞幹細胞を用いたがん幹細胞研究	河北 直也	呼吸器外科	¥650,000	補委	日本学術振興会
脳血管障害に影響を及ぼす特定菌周病菌の同定とその制御法の検討	兼松 康久	脳神経外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
ふたつの異なるモデルによるジストニア発症機序と治療ターゲットの解明	森垣 龍馬	脳神経外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
患者由来癌組織を用いたRCC Precision Medicine Project	高橋 正幸	泌尿器科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
Mutant p53 - DDX31 axisから紐解くCancer Immunology Research	大豆本 圭	泌尿器科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
高齢前庭障害患者の転倒を予防する抗重力筋強化を融合した個別化平衡訓練法の開発	佐藤 豪	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
ストレッチ刺激を契機としたTRPV2陽性クロード由来線維芽細胞のシグナル伝達の解明	峯田 一秀	形成外科・美容外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
組織透明化技術で明視化した皮弁内血管網構造の三次元的解析と皮弁灌流領域の解明	安倍 吉郎	形成外科・美容外科	¥780,000	補委	日本学術振興会
超小型THzチップを用いた高次メカノセンシングコンボジットレジン修復法の創出	保坂 啓一	むし歯科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
ヒト脳機能に着目した新規口腔機能訓練法の開発とその効果検証	後藤 崇晴	そしゃく科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会

呼吸機能の%FEV1と%PEFから求める嚥下機能の客観的評価法の確立と検査機器の開発	松山 美和	歯科衛生室	¥520,000	補委	日本学術振興会
マクロファージ局所制御機構を有する炭酸アパタイトの開発と骨再生機能低下の克服	福田 直志	口腔外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
歯周病が惹起する全身炎症性疾患の機序解明と酸化ストレス制御による予防法確立	高石 和美	歯科麻酔科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
骨補填材兼GBR用スパーサー機能をもつ炭酸アパタイト／魚コラーゲンシートの開発	工藤 景子	口腔外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
小児OSAの歯科的治療は漏胸胸を改善するか？－流体力学的研究－	岩崎 智憲	小児歯科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞の骨芽細胞分化におけるメカノセンサー、メカトランスダクションの解明	赤澤 友基	小児歯科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
歯の発生を利用したin vivo分子機能アノテーション構築	泰江 章博	矯正歯科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
行動変容を導く保健関連因子の探索と国際的視点での口腔保健アウトカムへの介入効果	日野出 大輔	歯科衛生室	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
免疫難病における自己抗体産生機構の解明と多角的臨床応用	石丸 直澄	病理部	¥3,250,000	補委	日本学術振興会
非伝搬性のハイブリッド光を用いた環境や人にやさしい殺菌システム	高橋 章	栄養部	¥3,250,000	補委	日本学術振興会
エビデンスを備えた口腔ケアの新展開－フノバクテリウムが及ぼす口腔癌病態への影響－	藤原 奈津美	歯科衛生室	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
血管内皮細胞障害に着目した新生児急性呼吸窮迫症候群の病態解明と治療法の開発	鈴江 真史	小児科	¥910,000	補委	日本学術振興会
医原性横隔膜損傷の関連因子の解明と予防法の開発	板垣 大雅	ER・災害医療診療部	¥130,000	補委	日本学術振興会
滑走運動経路と咀嚼運動経路の差に基づくCAD/CAM冠咬合面形態の臨床的検討	大川 敏永	総合歯科診療部	¥520,000	補委	日本学術振興会
大規模医療情報をを用いた薬剤性心筋炎治療薬の探索および有効性の検証	新村 貴博	総合臨床研究センター	¥910,000	補委	日本学術振興会
トバミントランスポーターイメージングの病理学的基盤の解明	松原 知康	脳神経内科	¥1,638,000	補委	日本学術振興会
CT撮影における各臓器の医療被曝量の測定と被曝量低減効果の検討	山下 一太	整形外科	¥520,000	補委	日本学術振興会
脳内微量出血模倣モデルにおける認知症関連蛋白発現機序の解明と制御	原 慶次郎	脳神経外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
VEGF産生と抗炎症効果を期待した根尖性歯周炎治療に対するCAPEの発展的研究	蔵本 瞳	むし歯科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
ポリウレタン・スポンジを気孔形成材とした炭酸アパタイト多孔体の開発と骨再生医療	秋田 和也	口腔外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
軟部肉腫薬物療法患者におけるePROモニタリングシステムの開発	土岐 俊一	整形外科	¥780,000	補委	日本学術振興会
高いpH感受性を持つGd造影剤開発のための基本的検討	松元 友暉	放射線診断科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
家族性大腸腺腫症の十二指腸腺腫に対するConnectivity Map解析に基づいた予防薬の開発	中村 文香	消化器内科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
DNase IIが血管の炎症と動脈硬化に与える影響の検討	原 知也	循環器内科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
消化器癌における化学療法耐性機序解明に関する研究	和田 佑馬	消化器・移植外科	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
食道癌に対するPD-1阻害薬とケモカイン治療併用による抗腫瘍効果増強に関する研究	後藤 正和	食道・乳腺甲状腺外科	¥2,470,000	補委	日本学術振興会
miRNAを用いた食道癌個別化治療の可能性	井上 聖也	食道・乳腺甲状腺外科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
未固定遺体を用いた股関節面および大腿骨頭前後面における応力分布の動的評価	玉置 康晃	整形外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会

ELK1を標的とした骨破壊抑制を併せ持つ新規抗腫瘍療法の開発	清水 宗	矯正歯科	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
インプラント周囲炎の病態形成におけるS100蛋白とCandidalysinの影響に関する研究	西川 泰史	口腔インプラントセンター	¥650,000	補委	日本学術振興会
筋痛モデルラットによる咀嚼筋痛受容機構解明ならびに治療法開発の基盤形成	生田目 大介	かみあわせ補綴科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
シェーグレン症候群におけるFam20Cおよびオステオポンチンの役割の解明と治療への応用	浪花 耕平	口腔内科	¥910,000	補委	日本学術振興会
骨破壊性悪性腫瘍の転移病変形成におけるDPP4の役割の解明	谷本 幸多朗	矯正歯科	¥2,470,000	補委	日本学術振興会
矯正用アライナーの計装化による矯正力と歯の移動量の定量評価	佐藤 博子	矯正歯科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
シスプラチン誘発腎障害の原因にアプローチする新たな予防戦略の開発	神田 将哉	薬剤部	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
唾液腺間葉系細胞が口腔乾燥症にもたらす影響の探索	福場 真美	口腔内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
新規癌骨病変形成因子NEO1の分子機序の解明とバイオマーカーとしての診断法の開発	中上 絵美子	矯正歯科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
歯周病細菌由来外膜小胞の歯周病における役割および病態解明	植村 勇太	歯周病科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
肺慢性GVHDにおける局所炎症環境の包括的理解に基づく層別化医療の開発	松岡 賢市	血液内科	¥2,889,604	補委	日本学術振興会
共食い口腔がん細胞による新たな腫瘍免疫逃避機構の同定	常松 貴明	病理部	¥3,250,000	補委	日本学術振興会
骨細胞が関与する骨痛メカニズムの解明	日浅 雅博	矯正歯科	¥2,730,000	補委	日本学術振興会
ACE2阻害薬およびERK経路阻害薬による慢性腎炎進展抑制効果の検証	永井 隆	小児科	¥919,197	補委	日本学術振興会
腫瘍関連線維芽細胞の脂質代謝に着目した腫瘍免疫制御のメカニズムの解明	石川 大地	消化器・移植外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
Hyperprogressive disease(HPD)における腫瘍関連マクロファージの意義の解明	宮崎 克己	消化器・移植外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
加齢性歯槽骨吸収における骨細胞の役割の解明	天真 寛文	矯正歯科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
口腔内細菌叢・内臓脂肪解析による新しい観点からのバレット食道進展メカニズムの解明	曽我部 正弘	消化器内科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases(IRUD)): 希少・未診断疾患に対する診断プログラム基盤の開発と患者還元を推進する研究	和泉 唯信	脳神経内科	¥7,800,000	補委	日本医療研究開発機構
生殖補助医療における出生児の長期予後と新規医療技術の影響に関する研究	岩佐 武	産科婦人科	¥11,651,912	補委	日本医療研究開発機構
筋萎縮性側索硬化症に対する治療薬の臨床評価ガイドライン作成に関する研究	和泉 唯信	脳神経内科	¥4,994,600	補委	日本医療研究開発機構
病的バリエントを有する遺伝性認知症を対象としたコホート構築による病態解明、バイオマーカー開発、治験促進	和泉 唯信	脳神経内科	¥1,950,000	補委	日本医療研究開発機構
認知症疾患・パーキンソン病関連疾患の“脳構造ネットワーク”による診断法の開発	藤田 浩司	脳神経内科	¥2,200,000	補委	日本医療研究開発機構
3次元回転浮遊培養分化誘導法による新規肝細胞様細胞の研究開発	島田 光生	消化器・移植外科	¥2,750,000	補委	日本医療研究開発機構
ピフィズス菌を利用した経口がんワクチンによる進行性尿路上皮癌を対象とした医師主導治験	古川 順也	泌尿器科	¥1,300,000	補委	日本医療研究開発機構
慢性めまいの層別化治療と治療装置開発に関する研究	佐藤 豪	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥260,000	補委	日本医療研究開発機構
SOD1変異ALSに対する遺伝子編集治療法の開発	和泉 唯信	脳神経内科	¥2,600,000	補委	日本医療研究開発機構
A-253 胸部腫瘍および肺線維症制御に向けたfibrocyte特異抗体の開発	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科	¥2,200,000	補委	日本医療研究開発機構

レジストリ連携による神経変性疾患iPS細胞コホートの構築と整備	和泉 唯信	脳神経内科	¥5,200,000	補 委	日本医療研究開発機構
トリアルレディコホート構築に向けた近位筋優位遺伝性運動感覚ニューロパチー(HMSN-P)のレジストリ研究	和泉 唯信	脳神経内科	¥1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構
遺伝子治療時代のALS治験即応型レジストリ整備とサロゲートマーカーの探索	和泉 唯信	脳神経内科	¥1,040,000	補 委	日本医療研究開発機構
高齢者難治性骨髄疾患を担う神経ネットワークの探索と機能解析に基づく臨床応用のための技術基盤の創出	原田 武志	血液内科	¥7,800,000	補 委	日本医療研究開発機構
近位筋優位遺伝性運動感覚ニューロパチーに対する遺伝子治療開発に向けた非臨床試験	和泉 唯信	脳神経内科	¥1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構
先天性リポイド副腎過形成症の診療ガイドライン作成に向けた患者レジストリ構築とリアルワールドエビデンス創出研究	岩佐 武	産科婦人科	¥650,000	補 委	日本医療研究開発機構
肝癌における治療抵抗性メカニズムに関する研究	島田 光生	消化器・移植外科	¥910,000	補 委	日本医療研究開発機構
自殺ボリジェニックリスクスコアを用いた精神疾患患者の自殺リスク予測に関する研究開発	沼田 周助	精神科神経科	¥260,000	補 委	日本医療研究開発機構
プリオン病国際医師主導治験獲得のためのプリオン病早期診断基準の作成と非侵襲性診断法の開発	藤田 浩司	脳神経内科	¥650,000	補 委	日本医療研究開発機構
表情から認知症を判別するアプリの開発研究	和泉 唯信	脳神経内科	¥3,250,000	補 委	日本医療研究開発機構
性分化疾患・性成熟疾患の治療成績向上に向けたエビデンス創出	岩佐 武	産科婦人科	¥1,040,000	補 委	日本医療研究開発機構
精神科診療ガイドラインの講習資料の作成と改訂	沼田 周助	精神科神経科	¥390,000	補 委	日本医療研究開発機構
家族性大腸腺腫症の重症化リスク低減手法の実用化を目指した臨床介入検証	高山 哲治	消化器内科	¥1,499,999	補 委	日本医療研究開発機構
女性ホルモンの影響による更年期以降の疾病の予防・治療に資するライフコース研究	安井 敏之	産科婦人科	¥260,000	補 委	日本医療研究開発機構
アルツハイマー病疾患修飾薬全国臨床レジストリの構築と解析	和泉 唯信	脳神経内科	¥1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構
統合失調症の早期診断のエビデンスの創出	沼田 周助	精神科神経科	¥1,950,000	補 委	日本医療研究開発機構
βヒドロキシ酪酸(BHB)薬事承認	沼田 周助	精神科神経科	¥1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構
自己脂肪組織より精製した脂肪由来幹細胞から製造したinsulin producing cell自家移植による次世代の1型糖尿病治療法確立に対する医師主導治験	池本 哲也	安全管理部	¥84,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
骨組成骨セメントの創製	宮本 洋二	口腔外科	¥3,900,000	補 委	日本医療研究開発機構
2型糖尿病の発症予防を目指すヘルスクエアサービスの適正評価確立のための研究	松久 宗英	糖尿病対策センター	¥1,950,000	補 委	日本医療研究開発機構
Fibrocyteによる「がんの鑑」免疫排除克服への挑戦	三橋 惇志	呼吸器・膠原病内科	¥7,593,300	補 委	科学技術振興機構

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

















計214件



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Saijo Y, Yamada H, Yamaguchi N, et al	循環器内科	Diagnostic Utility of Relative Apical Sparing Index in Cardiac Amyloidosis Subtypes: A Comparative Study of Immunoglobulin Light Chain and Transthyretin Amyloid Cardiomyopathy.	Echocardiography. 2025 Feb;42(2):e70087.	Original Article
2	Yoshimoto T, Nishi M, Okikawa S, et al	消化器・移植外科	Blue light irradiation inhibits the M2 polarization of the cancer- associated macrophages in colon cancer.	BMC Cancer. 2024 May 31;24(1):664. (オンライン)	Original Article
3	Wada Y, Nishi M, Yoshikawa K, et al	消化器・移植外科	Circulating Exosomal MicroRNA Signature Predicts Peritoneal Metastasis in Patients with Advanced Gastric Cancer.	Ann Surg Oncol. 2024 Sep;31(9):5997-6006.	Original Article
4	Nakao T, Shimada M, Yoshikawa K, et al	消化器・移植外科	Prognostic impact of the combination of p16(INK4a), p21 and Immunoscore in rectal cancer.	Int J Clin Oncol. 2024 Aug;29(8):1152-1160.	Original Article
5	Nakao T, Shimada M, Yoshikawa K, et al	消化器・移植外科	Number of Healthy Teeth Can Predict the Response of Rectal Cancer to Chemoradiotherapy: A Retrospective Study.	Am Surg. 2024 Nov;90(11):2679-2686.	Original Article
6	Nakao T, Shimada M, Tokunaga T, et al	消化器・移植外科	Feasibility of robot- assisted surgery for defining circumferential resection margins for rectal cancer: a retrospective study.	World J Surg Oncol. 2024 Nov 23;22(1):310. (オンラ イン)	Original Article
7	Tokunaga T, Yoshikawa M, Shimada M	消化器・移植外科	The introduction of surgical telementoring systems in rural hospitals.	World J Surg. 2025 Jan;49(1):84-88.	Original Article
8	Takasu C, Morine Y, Yoshikawa K, et al	消化器・移植外科	Impact of pure desmoplastic histological growth patterns in colorectal liver metastasis.	BMC Cancer. 2024 Dec 18;24(1):1528. (オンライ ン)	Original Article
9	Takehara Y, Waki Y, Morine Y, et al	消化器・移植外科	Vascular endothelial growth factor released from lenvatinib-resistant hepatocellular carcinoma promotes malignant behavior and drug resistance through tumor- associated macrophages.	Hepatol Res. 2025 May;55(5):752-762.	Original Article

10	Wada Y, Nishi M, Tokunaga T, et al	消化器・移植外科	Alteration of Apparent Diffusion Coefficient Measurements Predict Survival Outcomes During Neoadjuvant Chemoradiotherapy in Locally Advanced Rectal Cancer.	In Vivo. 2025 Mar-Apr;39(2):927-935.	Original Article
11	Yamada S, Morine Y, Ikemoto T, et al	消化器・移植外科	Evaluation of malignancy in gallbladder tumors using the apparent diffusion coefficient obtained by diffusion-weighted MRI.	Oncol Lett. 2024 Sep 4;28(5):533. (オンライン)	Original Article
12	Kashihara H, Okikawa S, Morine Y, et al	消化器・移植外科	Impact of Daikenchuto (TU-100) on the early postoperative period in duodenal-jejunal bypass.	J Med Invest. 2024;71(3.4):210-218.	Original Article
13	Wada Y, Nishi M, Shimada M	消化器・移植外科	Reply: Circulating Exosomal MicroRNA Signature Predicts Peritoneal Metastasis in Patients with Advanced Gastric Cancer.	Ann Surg Oncol. 2025 Jan;32(1):380-381.	Letter
14	Waki Y, Morine Y, Saito Y, et al	消化器・移植外科	Lenvatinib-resistant hepatocellular carcinoma promotes malignant potential of tumor-associated macrophages via exosomal miR-301a-3p.	Ann Gastroenterol Surg. 2024 May 13;8(6):1084-1095. (オンライン)	Original Article
15	Nishi M, Yamashita S, Takasu C, et al	消化器・移植外科	Role of mast cell in locally advanced rectal cancer treated with neoadjuvant chemoradiotherapy.	BMC Cancer. 2025 Jan 17;25(1):99. (オンライン)	Original Article
16	Takeuchi M, Matsuzaki K, Harada M	放射線診断科・放射線治療科	Endometriosis, a common but enigmatic disease with many faces: current concept of pathophysiology, and diagnostic strategy.	Jpn J Radiol. 2024 Aug;42(8):801-819.	Original Article
17	Matsuda N, Otsuka H, Kasai R, et al	放射線診断科・放射線治療科	Quantitative evaluation of (67)Ga-citrate scintigraphy in the management of nephritis.	Sci Rep. 2024 Jul 15;14(1):16313. (オンライン)	Original Article
18	Matsushita T, Otomi Y, Okada N, et al	放射線診断科・放射線治療科	<sup>177</sup> Lu-DOTATATE Uptake in the Lungs of a Patient With COVID-19 Pneumonia.	Clin Nucl Med. 2024 Sep 1;49(9):877-878.	Case report
19	Otomi Y, Teshima N, Shinya T, et al	放射線診断科・放射線治療科	<sup>11</sup> C-Methionine PET/CT in Cryptococcus Meningoencephalitis.	Clin Nucl Med. 2025 Feb 1;50(2):181-182.	Case report

20	Sasahara M, Yamanaka M, Matsushita T, et al	放射線診断科・放射線治療 科	Evaluation of the Ischemic Penumbra and Prognosis in acute Cerebral Infarction Using Cerebral Blood Flow and Delay Time Derived from Multi-delay pCASL Imaging.	J Med Invest. 2024;71(3.4):286-292.	Original Article
21	Ohmae H, Matsuda T, Fujimoto M, et al	リハビリテーション部	Safety and Selection Criteria of Single-joint Hybrid Assistive Limb for Upper Limb Paralysis After Stroke: A Phase I Trial.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2025 Jan 15;65(1):15-21.	Original Article
22	Hirata Y, Kusunose K	超音波センター	AI in Echocardiography: State-of-the-art Automated Measurement Techniques and Clinical Applications.	JMA J. 2025 Jan 15;8(1):141-150.	Original Article
23	Hayashi M, Soeki T, Noda Y, et al	ME管理センター	Risk Factors for Intraoperative Instability in Sedated Patients Undergoing Pulmonary Vein Isolation Ablation.	Int Heart J. 2024 Nov 30;65(6):1020-1024.	Original Article
24	Itagaki T, Akimoto Y, Takashima T, et al	ER・災害医療診療部	Ultrasonographic Assessment of the Diaphragm.	Diagnostics (Basel). 2024 Jul 10;14(14):1481. (オン ライン)	Original Article
25	Endo H, Sekiguchi R, Kinoshita M, et al	麻酔科診療部	Peripheral venous dilation using flow-mediated dilation response: A randomized crossover study.	J Vasc Access. 2024 Aug 22;11297298241273642.	Original Article
26	Takahashi R, Sakai Y, Kinoshita M, et al	麻酔科診療部	Quantitative and calculated estimated blood loss in cesarean deliveries for twin and singleton pregnancies: a retrospective analysis.	J Anesth. 2024 Oct;38(5):666-673.	Original Article
27	Nakaji Y, Sakai Y, Yonezawa H, et al	麻酔科診療部	Carbon dioxide embolism during laparoscopic hepatectomy in a patient with an iatrogenic atrial septal defect:a case report.	J Med Invest. 2024;71(3.4):320-322.	Case report
28	Matsumoto Y, Sakai Y, Kinoshita M, et al	麻酔科診療部	Impact of anesthesiologist experience on neuraxial anesthesia outcomes in cesarean sections.	Minerva Anesthesiol. 2024 Oct;90(10):864-871.	Original Article
29	Kinoshita M, Sakai Y, Tanaka K	麻酔科診療部	Gender representation among speakers at the Japanese Society of Anesthesiologists meetings: A retrospective analysis.	PLoS One. 2025 Mar 28;20(3):e0320398. (オン ライン)	Original Article

30	Aizawa F, Kajimoto H, Okabayashi A, et al	薬剤部	Statins ameliorate oxaliplatin- and paclitaxel-induced peripheral neuropathy via glutathione S-transferase.	Neurochem Int. 2024 Nov;180:105863.	Original Article
31	Aizawa F, Hamano H, Okada N, et al	薬剤部	Assessing the effects of interprofessional education by hospital pharmacists on pharmaceutical students using a self-evaluation scale.	J Pharm Health Care Sci. 2024 Oct 1;10(1):61. (オンライン)	Original Article
32	Sugasaki M, Nakamura S, Teramoto K, et al	薬剤部	Lupus anticoagulant hypoprothrombinemia syndrome with multiple and high-titer antiphospholipid antibodies strongly interfered with coagulation assays.	Blood Coagul Fibrinolysis. 2024 Apr 1;35(3):149-153.	Original Article
33	Inoue Y, Oda A, Maeda Y, et al	医療技術部	Ex vivo expansion and activation of $VI39VI^2$ T cells by CELMoDs in combination with zoledronic acid.	Int J Hematol. 2024 Jun;119(6):626-630.	Original Article
34	Inoue Y, Tenshin H, Teramachi J, et al	医療技術部	Elotuzumab-mediated ADCC with Th1-like $VI39VI^2$ T cells to disrupt myeloma-osteoclast interaction.	Cancer Sci. 2025 Feb;116(2):559-563.	Original Article
35	Munkhjargal U, Fukuda D, Maeda J, et al	循環器内科	LCZ696, an Angiotensin Receptor-Neprilysin Inhibitor, Ameliorates Endothelial Dysfunction in Diabetic C57BL/6 Mice.	J Atheroscler Thromb. 2024 Sep 1;31(9):1333-1340.	Original Article
36	Takahashi T, Wakatsuki T, Ise T, et al	循環器内科	Spontaneous thrombosis of a giant aneurysm complicated with the coronary-to-pulmonary artery fistula: a case report.	Eur Heart J Case Rep. 2024 Apr 26;8(5):ytac227. (オンライン)	Case report
37	Yagi S, kadota M, Bando R,etal	循環器内科	Pulmonary Arterial Hypertension in Neurofibromatosis Type 1: A Case with a Novel NF1 Gene Mutation.	Intern Med. 2005 Mar 1; 64(5): 725-728	Case report
38	Sata M	循環器内科	Message From the Editor-in-Chief- Submission Campaign for Medical Staff.	Circ Rep. 2024 Jul 1;6(7):235-237. (オンライン)	Original Article
39	Yagi S, Miyamoto R, Tasaki M, et al	循環器内科	The APOA1 p.Leu202Arg variant potentially causes autosomal recessive cardiac amyloidosis.	Hum Genome Var. 2024 Aug 16;11(1):30. (オンライン)	Original Article

40	Hara T, Sata M	循環器内科	Roles of perivascular adipose tissue in the pathogenesis of atherosclerosis – an update on recent findings.	Front Physiol. 2025 Jan 6;15:1522471. (オンライン)	Original Article
41	Sata M	循環器内科	Message From the Editor-in-Chief – Special Issue on the 30th Annual Scientific Meeting of the Japanese Association of Cardiac Rehabilitation.	Circ Rep. 2024 Oct 7;6(11):473–476. (オンライン)	Original Article
42	Hara T, Sata M	循環器内科	Current Real-World Status of Oral Anticoagulant Management in Japanese Patients.	Circ J. 2025 Jan 24;89(2):150–152.	Original Article
43	Yagi I, Yagi S, Nakanishi K, et al	循環器内科	Critical Limb Threatening Ischemia Due to Severe Polyarteritis Nodosa.	Intern Med. 2025 May 1;64(9):1355–1358.	Case report
44	Tsukazaki Y, Ogino H, Okano Y, et al	呼吸器・膠原病内科	Granulocyte colony-stimulating factor has the potential to attenuate the therapeutic efficacy of chemo-immunotherapy for extensive-stage small-cell lung cancer.	Int J Clin Oncol. 2024 Oct;29(10):1451–1460.	Original Article
45	Miyamoto K, Ogino H, Kakimoto T, et al	呼吸器・膠原病内科	Transformation of epidermal growth factor receptor mutated lung adenocarcinoma to small-cell carcinoma long after the cessation of tyrosine kinase inhibitor treatment: A case series and literature review.	Respir Med Case Rep. 2024 Jun 21;51:102076. (オンライン)	Case report
46	Matsumura Y, Sato S, Haji K, et al	呼吸器・膠原病内科	A case of pleural mesothelioma with immunohistochemical staining positive for Krebs von den Lungen-6.	Respir Med Case Rep. 2024 May 16;50:102040. (オンライン)	Case report
47	Yamashita Y, Sato S, Nii K, et al	呼吸器・膠原病内科	Isolated adrenocorticotrophic hormone deficiency presenting with arthritis: A case report.	Mod Rheumatol Case Rep. 2025 Jan 16;9(1):10–14.	Case report
48	Mitsuhashi A, Nishioka Y	呼吸器・膠原病内科	Fibrocytes in tumor microenvironment: Identification of their fraction and novel therapeutic strategy.	Cancer Sci. 2025 Jan;116(1):21–28.	Original Article

49	Yabuki Y, Mitsuhashi A, Ogino H, et al	呼吸器・膠原病内科	Hypoxia-inducible factor-targeting therapy augmented the sensitivity to programmed death ligand-1 blockade by enhancing interferon- $\beta$ -induced chemokines in tumor cells.	Int J Cancer. 2025 May 1;156(9):1814-1825.	Original Article
50	Sogabe M, Okahis T, Kagawa M, et al	消化器内科	Association of variabilities in body mass index and waist circumference with newly achieved remission of metabolic dysfunction-associated fatty liver disease.	Diabetes Metab Syndr. 2024 May;18(5):103036.	Original Article
51	Sogabe M, Okahisa T, Kagawa M, et al	消化器内科	Impact of alcohol consumption on metabolic dysfunction-associated fatty liver disease development and remission: A longitudinal cohort study.	Eur J Clin Invest. 2024 Sep;54(9):e14221.	Original Article
52	Sogabe M, Okahisa T, Kagawa M, et al	消化器内科	The association between alcohol consumption and cardiometabolic factors and liver fibrosis in metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease and metabolic dysfunction and alcohol-associated liver disease.	Aliment Pharmacol Ther. 2024 Dec;60(11-12):1587-1598.	Original Article
53	Kagemoto K, Okamoto K, Okada Y, et al	消化器内科	Clinicopathological evaluation of the efficacy of endoscopic treatment for sessile serrated lesions comparing endoscopic mucosal resection, cold snare polypectomy, and underwater endoscopic mucosal resection.	DEN Open. 2025 Jan 3;5(1):e70051. (オンライン)	Original Article
54	Miyoshi J, Mannucci A, Scarpa M, et al	消化器内科	Liquid biopsy to identify Barrett's oesophagus, dysplasia and oesophageal adenocarcinoma: the EMERALD multicentre study.	Gut. 2025 Jan 17;74(2):169-181. (オンライン)	Original Article
55	Tomonari T, Tani J, Sato Y, et al	消化器内科	Initial treatment efficacy and safety of durvalumab plus tremelimumab combination therapy in unresectable hepatocellular carcinoma in clinical practice.	JGH Open. 2024 Oct 4;8(10):e70033. (オンライン)	Original Article
56	Noda K, Sato Y, Okada Y, et al	消化器内科	Exosomal miR-199a-3p Secreted From Cancer-Associated Adipocytes Promotes Pancreatic Cancer Progression.	Cancer Med. 2024 Oct;13(20):e70265.	Original Article

57	Sogabe M, Okahisa T, Kagawa M, et al	消化器内科	Metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease and gallbladder polyp development: an observational study.	Sci Rep. 2024 Sep 28;14(1):22446. (オンライン)	Original Article
58	Kawano Y, Watanabe N, Nishiyama M, et al	消化器内科	Feasibility and Safety of Food Containing Acanthopanax senticosus for Treating Patients with Cancer-Related Fatigue.	Palliat Med Rep. 2024 Aug 23;5(1):381-386. (オンライン)	Original Article
59	Hasegawa K, Tamaki M, Sakamaki Y, et al	腎臓内科	Nmnat1 Deficiency Causes Mitochondrial Excess in Diabetic Nephropathy Mediated by Transcriptional Repressor HIC1.	Int J Mol Sci. 2024 Jun 9;25(12):6384. (オンライン)	Original Article
60	Hasegawa K, Tamaki M, Shibata E, et al	腎臓内科	Ability of NAD and Sirt1 to epigenetically suppress albuminuria.	Clin Exp Nephrol. 2024 Jul;28(7):599-607.	Original Article
61	Tamaki M, Inagaki T, Minato M, et al	腎臓内科	Roxadustat for Treating Anemia in Patients with Advanced Chronic Kidney Disease Not Undergoing Dialysis: A Retrospective Study.	Intern Med. 2025 May 1;64(9):1303-1314.	Original Article
62	Hori T, Aihara KI, Ishida K, et al	内分泌・代謝内科	Usefulness of Palliative Prognostic Index, Objective Prognostic Score, and Neutrophil-Lymphocyte Ratio/Albumin Ratio As Prognostic Indicators for Patients Without Cancer Receiving Home-Visit Palliative Care: A Pilot Study at a Community General Hospital.	Palliat Med Rep. 2024 Apr 4;5(1):142-149. (オンライン)	Original Article
63	Hori T, Aihara KI, Watanabe T, et al	内分泌・代謝内科	The Respiratory Adjusted Shock Index at Admission Is a Valuable Predictor of In-Hospital Outcomes for Elderly Emergency Patients with Medical Diseases at a Japanese Community General Hospital.	J Clin Med. 2024 Aug 18;13(16):4866. (オンライン)	Original Article
64	Hara T, Watanabe T, Yamagami H, et al	内分泌・代謝内科	Development of Liver Fibrosis Represented by the Fibrosis-4 Index Is a Specific Risk Factor for Tubular Injury in Individuals with Type 2 Diabetes.	Biomedicines. 2024 Aug 7;12(8):1789. (オンライン)	Original Article

65	Takahashi M, Kondo S, Kagawa K, et al	内分泌・代謝内科	Skeletal muscle mass during chemotherapy for haematological malignancies: a retrospective study.	BMJ Support Palliat Care. 2024 May 17;14(2):195–199. (オンライン)	Original Article
66	Oura M, Sumitani R, Maeda Y, et al	内分泌・代謝内科	Acute myeloid leukemia developed through myeloproliferative features during immunosuppressive therapy for juvenile idiopathic arthritis.	J Med Invest. 2024;71(3.4):335–339.	Case report
67	Maeda Y, Takao S, Morita S, et al	内分泌・代謝内科	Quality of skeletal muscles during allogeneic stem-cell transplantation: a pilot study.	BMJ Support Palliat Care. 2024 Oct 1:spcare-2024-005070.	Original Article
68	Sumitani R, Higashi K, Oura M, et al	内分泌・代謝内科	Effective Intractable Chylous Ascites Treatment by Lymphangiography with Lipiodol in a Patient with Follicular Lymphoma.	Intern Med. 2025 Apr 15;64(8):1223–1228.	Case report
69	Hanibuchi M, Miki M, Hiraoka K, et al	内分泌・代謝内科	A case of pulmonary Mycobacterium heckeshornense infection coexisted with lung cancer.	J Med Invest. 2024;71(3.4):327–331.	Case report
70	Hanada K, Osaki Y, Miyamoto R, et al	脳神経内科	Intermediate phenotype between CMT2Z and DIGFAN associated with a novel MORC2 variant: a case report.	Hum Genome Var. 2024 Aug 15;11(1):29. (オンライン)	Original Article
71	Kaji R, Izumi Y, Oki R	脳神経内科	Ultra-high dose methylcobalamin and other emerging therapies for amyotrophic lateral sclerosis.	Curr Opin Neurol. 2024 Oct 1;37(5):593–602.	Original Article
72	Yoshida T, Inoue M, Kumon Y, et al	脳神経内科	Usefulness of skeletal muscle ultrasound as a screening test for sarcopenia in patients with rheumatoid arthritis.	Int J Rheum Dis. 2024 Jul;27(7):e15257.	Letter
73	Yamazaki H, Sato R, Matsubara T, et al	脳神経内科	Sarcoid Neuropathy Presenting with Two Novel Ultrasound Findings of Increased Intraneural Blood Flow and Small Saphenous Vein Wall Thickening: A Case Report.	Intern Med. 2025 Mar 8.	Original Article
74	Matsui N, Tanaka K, Kokubun N, et al	脳神経内科	Prevalence, clinical profiles, and prognosis of Isaacs syndrome: A nationwide survey study in Japan.	J Neurol Sci. 2025 May 15;472:123442.	Original Article



75	Osaki Y, Nodera H, Sato R, et al	脳神経内科	Peripheral nerve excitability abnormalities in Neuronal Intranuclear Inclusion Disease: Assessment with histopathological analysis.	Clin Neurophysiol. 2025 Feb;170:156–167.	Original Article
76	Takeuchi T, Takizawa H, Bando Y, et al	食道・乳腺甲状腺外科	Robot-assisted thoracoscopic resection of a posterior mediastinal tumor with immunoglobulin G4-related disease: a case report.	J Cardiothorac Surg. 2024 May 16;19(1):291. (オンライン)	Case report
77	Sakamoto S, Kawakita N, Takeuchi T, et al	食道・乳腺甲状腺外科	Impact of interstitial lung disease gender-age-physiology index in surgically treated lung cancer.	Int J Clin Oncol. 2024 Oct;29(10):1475–1482.	Original Article
78	Fujimoto K, Inoue S, Goto M, et al	食道・乳腺甲状腺外科	Esophageal Atresia Caused by Corrosive Esophagitis for over 50 Years: A Case Report.	Surg Case Rep. 2025;11(1):24–0116.	Case report
79	Kawakita N, Takehara E, Takeuchi T, et al	食道・乳腺甲状腺外科	Advantages of a larger working channel diameter of ultrathin bronchoscope in cone-beam computed tomography-guided transbronchial biopsy for diagnosing peripheral lung lesions.	Lung Cancer. 2025 Apr;202:108483.	Original Article
80	Kawakita N, Toba H, Miyamoto N, et al	食道・乳腺甲状腺外科	Intraoperative Transbronchial Metallic Coil Marking for Small Peripheral Pulmonary Lesions in a Hybrid Operation Room.	Cancers (Basel). 2024 Dec 1;16(23):4038. (オンライン)	Original Article
81	Takizawa H, Miyamoto N, Kawakita N, et al	呼吸器外科	Intraoperative transbronchial metallic coil marking guided by mobile 3D C-arm for resection of a small peripheral lung lesion.	J Thorac Dis. 2024 Nov 30;16(11):7933–7940.	Original Article
82	Inoue S, Goto M, Fujiwara S, et al	呼吸器外科	Achievements of perioperative assist team medical care in esophageal cancer surgery, Tokushima University Hospital.	J Med Invest. 2024;71(3.4):279–285.	Original Article
83	Misaki M, Kawakita N, Hara T, et al	呼吸器外科	Silicone stent placement for tracheal stenosis induced by a giant goiter due to Graves' disease: a case report.	Gland Surg. 2024 Apr 29;13(4):578–583.	Case report

84	Sasaki Y, Kusahara Y, Oyama T, et al	泌尿器科	Radical prostatectomy using the Hinotori robot-assisted surgical system: Docking-free design may contribute to reduction in postoperative pain.	Int J Med Robot. 2024 Jun;20(3):e2648.	Original Article
85	Tomida R, Takahashi M, Matsushita Y, et al	泌尿器科	Comparison of Cabozantinib and Axitinib as Second-line Therapy After Nivolumab Plus Ipilimumab in Patients With Metastatic Clear Cell Renal Cell Carcinoma: A Comparative Analysis of Retrospective Real-world Data.	Clin Genitourin Cancer. 2024 Jun;22(3):102094.	Original Article
86	Kadoriku F, Sasaki Y, Fukuta K, et al	泌尿器科	Robot-assisted intracorporeal ileal conduit urinary diversion: A two-center comparative study of Bricker versus Wallace ureteroileal anastomosis.	Asian J Endosc Surg. 2024 Apr;17(2):e13307.	Original Article
87	Tomida R, Fukawa T, Kusahara Y, et al	泌尿器科	Robot-assisted partial nephrectomy in younger versus older adults with renal cell carcinoma: a propensity score-matched analysis.	World J Urol. 2024 May 15;42(1):326. (オンライン)	Original Article
88	Furukawa J, Tomida R, Daizumoto K, et al	泌尿器科	Advances in Adjuvant Therapy for Renal Cell Carcinoma: Perspectives on Risk Stratification and Treatment Outcomes.	Int J Urol. 2025 Mar 24.	Original Article
89	Sasaki Y, Yamamoto Y, Mizuguchi M, et al	泌尿器科	A case of laparoscopically assisted vulvar reconstruction using the gluteal fold flap for anterior enterocoele after robot-assisted radical cystectomy in a woman.	IJU Case Rep. 2025 Jan 2;8(2):121-124. (オンライン)	Original Article
90	Takahashi M, Matsushita Y, Kojima T, et al	泌尿器科	Effectiveness and Safety of Second-line Tyrosine Kinase Inhibitors After Discontinuation of First-line Immune-oncology Combination Therapy Because of Adverse Events in the Patients With Metastatic Renal Cell Carcinoma.	Clin Genitourin Cancer. 2025 Jun;23(3):102322.	Original Article
91	Furukawa J, Kakei Y, Murakami S, et al	泌尿器科	Safety and efficacy of oral cancer vaccine B440 in patients with PD-1/PD-L1 inhibitor-resistant advanced urothelial cancer: a study protocol for a phase 1 multicenter, open-label, single-arm clinical trial.	BMC Cancer. 2025 Feb 4;25(1):195. (オンライン)	Original Article

92	Sasaki Y, Yamamoto Y, Fukuta K, et al	泌尿器科	Cutaneous ureterostomy following robot-assisted radical cystectomy: a multicenter comparative study of transperitoneal versus retroperitoneal techniques.	World J Urol. 2024 Oct 23;42(1):591. (オンライン)	Original Article
93	Sasaki Y, Yokota N, Nozaki S, et al	泌尿器科	Robot-assisted nephroureterectomy using the GelPoint Platform with a focus on optimizing the port position and specimen retrieval.	Asian J Endosc Surg. 2024 Oct;17(4):e13386.	Original Article
94	Sasaki Y, Fukuta K, Kadoriku F, et al	泌尿器科	Retroperitoneal cutaneous ureterostomy following radical cystectomy: A multicenter comparative study of robotic versus open surgery.	Int J Urol. 2024 Dec;31(12):1408-1413.	Original Article
95	Furukawa J, Kato T, Yamasaki T, et al	泌尿器科	Real-world outcomes with avelumab+axitinib in patients with advanced renal cell carcinoma in Japan: subgroup analyses from the J-DART2 study by International Metastatic Renal Cell Carcinoma Database Consortium risk classification.	Int J Clin Oncol. 2025 Apr;30(4):749-760.	Original Article
96	Kajita K, Nishida M, Kurimoto Y, et al	眼科	Graft cell expansion from hiPSC-RPE strip after transplantation in primate eyes with or without RPE damage.	Sci Rep. 2024 May 2;14(1):10044. (オンライン)	Original Article
97	Yanai R, Uchi SH, Kondo Y, et al	眼科	The epidemiology of uveitis: comparison of its causes and visual outcomes between three-tiered medical facilities in Ube city.	Sci Rep. 2025 Mar 15;15(1):8998. (オンライン)	Original Article
98	Miyake K, Egawa M, Mitamura Y, et al	眼科	Case report: Two cases of multiple evanescent white dot syndrome with transient night blindness.	Front Ophthalmol (Lausanne). 2025 Feb 17;5:1557294. (オンライン)	Case report
99	Yanai R, Yasunaga G, Tsuji S, et al	眼科	Dietary intake of whale oil-containing 1?-3 long-chain polyunsaturated fatty acids attenuates choroidal neovascularization in mice.	FASEB J. 2025 Feb 28;39(4):e70378.	Original Article
100	Fukuda J, Matsuda K, Sato G, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Effects of sodium bicarbonate solution on hypergravity-induced Fos expression in neurons of the amygdala in rats: Implication of sodium bicarbonate therapy for vertigo.	Auris Nasus Larynx. 2024 Aug;51(4):733-737.	Original Article

101	Kamimura S, Kondo E, Azuma T, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	SWI/SNF-Related Matrix-Associated Actin-Dependent Regulator of Chromatin Subfamily B Member 1 (SMARCB1)-Deficient Tumor in the Parapharyngeal Space: A Case Report.	Cureus. 2024 Sep 11;16(9):e69171. (オンライン)	Case report
102	Kamimura S, Ishitani K, Morozumi R, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Effect of dupilumab on otitis media associated with eosinophilic chronic rhinosinusitis.	Braz J Otorhinolaryngol. 2025 Mar-Apr;91(2):101555.	Original Article
103	Takaoka S, Ohnishi H, Ishitani K, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Orbital apex syndrome secondary to acute invasive fungal rhinosinusitis diagnosed by transnasal endoscopic biopsy of the optic canal:A case report.	J Med Invest. 2024;71(3.4):310-313.	Case report
104	Omichi Y, Shinomiya F, Mima N, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Impact of Bone Mineral Density and Bone Structural Properties on Postmenopausal Women With Rheumatoid Arthritis in Japan: A Cross-Sectional Study.	Cureus. 2024 Jul 21;16(7):e65056. (オンライン)	Original Article
105	Kamimura S, Ishitani K, Shono H, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Location of ethmoidal arteries in relation to ethmoid cells and the anterior skull base.	J Med Invest. 2024; 71(3.4):273-278	Original Article
106	Omichi Y, Shinomiya F, Mima N, et al	整形外科	Impact of Bone Mineral Density and Bone Structural Properties on Postmenopausal Women With Rheumatoid Arthritis in Japan: A Cross-Sectional Study.	Cureus. 2024 Jul 21;16(7):e65056. (オンライン)	Original Article
107	Yokoyama K, Matsuura T, Iwase J, et al	整形外科	Sagittal computed tomography evaluation of osteochondritis dissecans of the capitellum correlates with clinical outcomes of arthroscopic debridement in adolescent baseball players.	J ISAKOS. 2024 Dec;9(6):100301.	Original Article
108	Morimoto M, Sugiura K, Manabe H, et al	整形外科	Comparison of Percutaneous Endoscopic Transforaminal Discectomy, Chemonucleolysis, Microdiscectomy, and Microendoscopic Discectomy for Symptomatic Lumbar Disc Herniation: One-year Follow-up Clinical Results and Disc Degeneration.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2024 Sep 15;64(9):330-338.	Original Article

109	Kawaguchi S, Nishisho T, Toki S, et al	整形外科	Blue Light Emitting Diode Suppresses Sarcoma Cell Proliferation via the Endogenous Apoptotic Pathway Without Damaging Normal Cells.	Cancer Med. 2025 Mar;14(6):e70770.	Original Article
110	Sugiura K, Payne C, Tran NT, et al	整形外科	Transforaminal Full-Endoscopic Surgery for Lumbar Foraminal Pathologies: A Comparative Clinical Effectiveness Study.	Neurosurgery. 2025 Mar 1;96(3S):S51-S62.	Original Article
111	Kanda Y, Mizutani K, Kumon M, et al	整形外科	Pitfalls in the Diagnosis and Treatment of Low Back Pain in an Elite Para-athlete Successfully Treated by Transforaminal Full-endoscopic Discectomy with Thermal Annuloplasty: A Case Reports.	NMC Case Rep J. 2025 Jan 28;12:7-13. (オンライン)	Case report
112	Sugiura K, Sakai T, Morimoto M, et al	整形外科	Five Years of Follow-up after Posterior Cervical Fusion Surgery for Hirayama Disease:A Case Report.	J Med Invest. 2024;71(3.4):298-302.	Case report
113	Yoshimura D, Kawamata J, Fukuta S, et al	整形外科	Minimal clinically important difference in the Japanese Orthopedic Association Score and shoulder 36 after arthroscopic rotator cuff repair in a Japanese population: A retrospective cohort study.	J Orthop Sci. 2024 Nov 21:S0949-2658(24)00197-0.	Original Article
114	Sairoyo K, Kanda Y, Mizutani K, et al	整形外科	Transforaminal full-endoscopic decompression under local anesthesia for foraminal stenosis due to stable L5 isthmic spondylolisthesis, a technical note and review:Pars crisscross decompression.	J Med Invest. 2024;71(3.4):191-196.	Original Article
115	Niki M, Kubo Y	皮膚科	A case of Bell palsy during the course of oral TYK2 inhibitor deucravacitinib therapy in psoriasis.	J Dermatol. 2025 May;52(5):e337-e338.	Letter
116	Mineda K, Sato K, Nakahara T, et al	形成外科・美容外科	Specific Calcium Signal Responses in Human Keloid-Derived Fibroblasts During Cyclical Stretching: Basic Research.	Health Sci Rep. 2025 Mar 2;8(3):e70461. (オンライン)	Original Article
117	Mima S, Abe Y, Yamasaki H, et al	形成外科・美容外科	Plantar pressure and shear stress during gait in people with diabetic neuropathy.	Diabetol Int. 2025 Jan 14;16(2):285-293. (オンライン)	Original Article

118	Nakagawa M, Nakagawa K, Nakai K, et al	形成外科・美容外科	Characteristics of hospital pediatricians and obstetricians/gynecologists working long hours in Tokushima, Japan: A cross-sectional study.	PLoS One. 2024 Nov 18;19(11):e0311653. (オンライン)	Original Article
119	Abe Y, Mineda K, Yamashita Y, et al	形成外科・美容外科	A novel lower eyelid reconstruction using a skin-tarsoligamentous sling to prevent postoperative drooping deformity: Quantitative analyses using drooping index and angular difference in canthal tilt.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2024 Nov;98:263–271.	Original Article
120	Matsuda T, Morigaki R, Hayasawa H, et al	脳神経外科	Striatal parvalbumin interneurons are activated in a mouse model of cerebellar dystonia.	Dis Model Mech. 2024 May 1;17(5):dmm050338	Original Article
121	Kanematsu Y, Kanazawa Y, Shimada K, et al	脳神経外科	Characterization of carotid plaques using chemical exchange saturation transfer imaging.	Neuroradiology. 2024 Sep;66(9):1617–1624.	Original Article
122	Enomoto N, Matsuzaki K, Matsuda T, et al	脳神経外科	Effectiveness of hinge craniotomy as an alternative to decompressive craniectomy for acute subdural hematoma.	Acta Neurochir (Wien). 2024 Jun 18;166(1):272. (オンライン)	Original Article
123	Azumi M, Mizobuchi Y, Nakanishi N, et al	脳神経外科	Value of the Acute Physiology and Chronic Health Evaluation II (APACHE II) score in predicting hospital mortality for postoperative brain tumor patients in intensive care units in Japan: A retrospective case-control study.	Clin Neurol Neurosurg. 2024 Sep;244:108435.	Original Article
124	Nakanishi H, Morigaki R, Fujikawa J, et al	脳神経外科	Online training program maintains motor functions and quality of life in patients with Parkinson's disease.	Front Digit Health. 2024 Nov 13;6:1486662. (オンライン)	Original Article
125	Morigaki R, Miyamoto R, Miyake K, et al	脳神経外科	Striking Efficacy of Pallidal Deep Brain Stimulation in a Patient with Predominant Abductor Laryngeal Dystonia: A Case Report.	Mov Disord Clin Pract. 2024 Nov;11(11):1462–1464.	Letter
126	Sekiguchi R, Kinoshita M, Sakai Y, et al	麻酔科	Anesthetic management of a patient with mandibular hypoplasia, deafness, progeroid features, lipodystrophy syndrome: a case report.	JA Clin Rep. 2024 Oct 10;10(1):64. (オンライン)	Original Article

127	Takeda T, Umehara H, Matsumoto Y, et al	精神科神経科・心身症科	Schizophrenia and cognitive dysfunction.	J Med Invest. 2024;71(3.4):205-209.	Original Article
128	Hayabuchi Y, Homma Y	小児科	Characterization of Intracardiac Flow in the Right Ventricle With Pressure and Volume Overload in Children.	Cardiol Res. 2025 Feb;16(1):22-32.	Original Article
129	Fujioka K, Nagai T, Hattori T, et al	小児科	Renin-angiotensin blockade ameliorates the progression of glomerular injury in podocyte-specific Cctf knockout mice.	Nephrology (Carlton). 2024 Dec;29(12):815-824.	Original Article
130	Arata M, Tamura K, Aoki H, et al	産科婦人科	The Effects of Testosterone on Hypothalamic and Serum Oxytocin Levels Are Affected by the Estrogen Milieu in Female Rats.	Nutrients. 2024 Aug 2;16(15):2533. (オンライン)	Original Article
131	Noguchi H, Iwasa T, Iwase A, et al	産科婦人科	Cut-off value for anti-MA?llerian hormone in the diagnostic criteria for polycystic ovary syndrome in the Japanese population.	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Aug;50(8):1368-1382.	Original Article
132	Yamamoto S, Arakaki R, Noguchi H, et al	産科婦人科	Kisspeptin administration may promote precopulatory behavior in male rats independently or supplementally to testosterone and contribute to proceptive behavior in female partners, reducing mating failure.	Gen Comp Endocrinol. 2024 Jul 1;353:114528.	Original Article
133	Kaji T, Maeda K, Imaizumi J, et al	産科婦人科	Prenatal diagnosis of uterus didelphys without hydrocolpos.	Ultrasound Obstet Gynecol. 2024 Jun;63(6):838-839.	Case report
134	Purevdorj T, Arata M, Nii M, et al	産科婦人科	Porcine Placental Extract Improves the Lipid Profile and Body Weight in a Post-Menopausal Rat Model Without Affecting Reproductive Tissues.	Nutrients. 2025 Mar 11;17(6):984. (オンライン)	Original Article
135	Masaki R, Yamamoto Y, Tamura K, et al	産科婦人科	Comparison of endogenous hypothalamic and serum OT levels between young and middle-aged perimenopausal female rats.	J Med Invest. 2024;71(3.4):246-250.	Original Article
136	Kaji T, Noguchi H, Tamura K, et al	産科婦人科	Survey on the incidence of multiple pregnancies and neonatal outcomes by fertility treatment in Tokushima Prefecture, Japan.	J Med Invest. 2024;71(3.4):251-253.	Original Article

137	Noguchi H, Iwasa T, Iwase A, et al	産科婦人科	Phenotypes and clinical laboratory data for polycystic ovary syndrome cases: A nationwide survey in Japan.	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Dec;50(12):2346–2356.	Original Article
138	Noguchi H, Iwase A, Iwasa T, et al	産科婦人科	Japan Society of Obstetrics and Gynecology revised diagnostic criteria for polycystic ovary syndrome: JSOG2024 criteria.	J Obstet Gynaecol Res. 2025 Jan;51(1):e16152.	Original Article
139	Okamoto R, Hosokawa Y, Hosokawa I, et al	歯科	Cardamonin inhibits the expression of inflammatory mediators in TNF- $\alpha$ -stimulated human periodontal ligament cells.	Immunopharmacol Immunotoxicol. 2024 Aug;46(4):521–528.	Original Article
140	Nakanishi T, Mieda K, Kuramoto H, et al	歯科	Effect of interleukin-17A on inflammatory mediator production in interleukin-1 $\beta$ -stimulated human dental pulp fibroblasts.	Eur J Oral Sci. 2024 Oct;132(5):e13019.	Original Article
141	Okamoto R, Hosokawa Y, Hosokawa I, et al	歯科	Zerumbone modulates the expression of inflammatory mediators and antioxidant enzymes in TNF- $\alpha$ -stimulated human periodontal ligament cells.	Immunopharmacol Immunotoxicol. 2025 Apr;47(2):176–181.	Original Article
142	Iuchi T, Yonekura K, Ida Y, et al	歯科	The effect of HEMA and 10-MDP in the bonding agent of a two-step self-etch system on water sorption, elastic modulus, and microtensile bond strength to dentin.	Dent Mater J. 2025 Jan 31;44(1):17–23.	Original Article
143	Mieda K, Nakanishi T, Kuramoto H, et al	歯科	Sudachitin Reduces Inflammatory Mediator Expression in Toll-Like Receptor 2 Ligand-Stimulated Human Dental Pulp Cells.	Cell Biochem Biophys. 2025 Jun;83(2):2431–2439.	Original Article
144	Kuramoto H, Nakanishi T, Yumoto H, et al	歯科	Caffeic Acid Phenethyl Ester Enhances Bone Repair-related Factors in MC3T3-E1 Cells.	Cell Biochem Biophys. 2025 Jun;83(2):2323–2331.	Original Article
145	Masutomi K, Bando M, Inagaki Y, et al	歯科	Relationship between oral hypofunction and salivary biomarkers in older adults: a cross-sectional study.	BMC Oral Health. 2024 Jul 6;24(1):766. (オンライン)	Original Article



146	Kido R, Hiroshima Y, Kido JI, et al	歯科	Lipocalin 2 inhibits the expressions of interleukin-8 and macrophage inflammatory protein-1 $\alpha$ in human neutrophil-like cells.	J Oral Biosci. 2025 Mar;67(1):100624.	Original Article
147	Akizuki M, Murakami K, Sekine K, et al	歯科	Hydrophobic 2-methacryloyloxyethyl phosphorylcholine polymer inhibits peri-implantitis-causing bacterial adhesion on titanium materials.	J Appl Microbiol. 2025 Feb 3;136(2):lxaf033.	Original Article
148	Goto T, Fujiwara S, Koda T, et al	歯科	Biopsychosocial Consideration of Ikigai in Older Adults in Japan through a Cross-Sectional Study.	Geriatrics (Basel). 2024 Jun 8;9(3):78. (オンライン)	Original Article
149	Oku Y, Suito H, Fujimoto K, et al	歯科	Relationship between vertical hyoid bone position and swallowing function in older adults.	J Oral Sci. 2025 Apr 16;67(2):91-95.	Original Article
150	Goto T, Masutomi Y, Ichikawa T	歯科	Distribution of main occluding area and associated factors in adolescents.	J Oral Sci. 2024;66(4):237-240.	Original Article
151	Hosoki M, Miyagi M, Okura K, et al	歯科	Proposals and evaluations for the enhancement of CAD/CAM education.	J Prosthodont Res. 2025 Apr 14;69(2):133-135.	Original Article
152	Tajima T, Hosoki M, Miyagi M, et al	歯科	Correlation between pierced earrings and the prevalence of metal allergies at Tokushima university hospital: a 15-year retrospective analysis.	Sci Rep. 2025 Mar 29;15(1):10939. (オンライン)	Original Article
153	Fabillar J Jr, Perdana LP, Raman S, et al	歯科	Bilateral transport of neuronal tracer after unilateral administration: Investigation of potential peripheral mechanism.	Neurosci Lett. 2025 Apr 1;854:138219.	Original Article
154	Hosoki M, Tajima T, Miyagi M, et al	歯科	This Report Details a Case of Allergic Contact Dermatitis Resulting From Exposure to Chromium in the Clasp of an Apple Watch Band.	Dermatitis. 2024 Dec 23.	Original Article

155	Ozawa A, Suzuki Y, Okura K, et al	歯科	Three-dimensional analysis using a dental model scanner: Morphological changes of occlusal appliances used for sleep bruxism under dry and wet conditions.	PLoS One. 2025 Feb 4;20(2):e0318551. (オンライン)	Original Article
156	Suito H, Yoshihara H, Maeda N, et al	歯科	Evaluation of the effect of reducing metal artifacts in multi-detector CT imaging of zirconia and titanium implants.	Oral Radiol. 2025 Mar 4.	Original Article
157	Takata M, Nishikawa M, Eguchi S, et al	歯科	The i-viewAR Video Laryngoscope Compared With the Macintosh Laryngoscope Does Not Enhance the Endotracheal Intubation Skills of Dental Students.	Cureus. 2024 Aug 7;16(8):e66400. (オンライン)	Original Article
158	Xia L, Kano F, Hashimoto N, et al	矯正歯科	Conditioned Medium From Stem Cells of Human Exfoliated Deciduous Teeth Alleviates Mouse Osteoarthritis by Inducing sFRP1-Expressing M2 Macrophages.	Stem Cells Transl Med. 2024 Apr 15;13(4):399-413.	Original Article
159	Tanaka E, Mercuri LG	矯正歯科	Current Status of the Management of Idiopathic Condylar Resorption/Progressive Condylar Resorption-A Scoping Review.	J Clin Med. 2024 Jul 5;13(13):3951. (オンライン)	Original Article
160	Kim S, Teramachi J, Hiasa M, et al	矯正歯科	Myeloma cell growth suppression by osteoblast-derived extracellular vesicles: the creation of a non-permissive niche for myeloma cells by bone-forming osteoblasts.	Haematologica. 2025 Jan 23.	Original Article
161	Kitamura T, Uegomori-Yokura A, Oku Y, et al	小児歯科	Effects of adenoid hypertrophy on nasopharyngeal airway ventilation: A computational fluid dynamics study.	Int J Pediatr Otorhinolaryngol. 2024 May;180:111961.	Original Article
162	Fukuda N, Takamaru N, Akita K, et al	歯科口腔外科	Application and evaluation of carbonate apatite granules for mandibular bone defect reconstruction after jawbone cyst enucleation-a retrospective case series.	Oral Maxillofac Surg. 2024 Nov 22;29(1):14. (オンライン)	Original Article

163	Tagi M, Hamada Y, Shan X, et al	病院情報センター	A Food Intake Estimation System Using an Artificial Intelligence-Based Model for Estimating Leftover Hospital Liquid Food in Clinical Environments: Development and Validation Study.	JMIR Form Res. 2024 Nov 5;8:e55218. (オンライン)	Original Article
164	Kawada K, Ishida T, Morisawa S, et al	薬剤部	Atractylodes lancea (Thunb.) DC. [Asteraceae] rhizome-derived exosome-like nanoparticles suppress lipopolysaccharide-induced inflammation in murine microglial cells.	Front Pharmacol. 2024 Apr 26;15:1302055. (オンライン)	Original Article
165	Kawada K, Ishida T, Fukuda H, et al	薬剤部	Effects of renin-angiotensin system inhibitor and beta-blocker use on mortality in older patients with heart failure with reduced ejection fraction in Japan.	Front Cardiovasc Med. 2024 May 31;11:1377228. (オンライン)	Original Article
166	Kawada K, Ishida T, Yoshioka T, et al	薬剤部	Association of non-steroidal anti-inflammatory drug use with encephalopathy development: An analysis using the United States Food and Drug Administration Adverse Event Reporting System (FAERS) and Japanese Adverse Drug Event Report (JADER) databases.	Pharmazie. 2024 Jun 1;79(6):118-123.	Original Article
167	Kawada K, Ishida T, Kubo T, et al	薬剤部	Novel predictors of infection-related rehospitalization in older patients with heart failure in Japan.	Geriatr Gerontol Int. 2025 Apr;25(4):543-552.	Original Article
168	Kawada K, Sato C, Ishida T, et al	薬剤部	Vitamin D Supplementation and Allergic Rhinitis: A Systematic Review and Meta-Analysis.	Medicina (Kaunas). 2025 Feb 18;61(2):355. (オンライン)	Original Article
169	Okamoto N, Yagi K, Imawaka S, et al	薬剤部	Asciminib, a novel allosteric inhibitor of BCR-ABL1, shows synergistic effects when used in combination with imatinib with or without drug resistance.	Pharmacol Res Perspect. 2024 Aug;12(4):e1214.	Original Article
170	Shikata E, Yamaguchi I, Korai M, et al	脳神経外科	Could clazosentan, first approved in Japan, improve neurological prognosis after subarachnoid hemorrhage in combination with modified water-electrolyte management?	BRAIN HEMORRHAGES.2024 APR;5(2):7	Review

171	Doi S, Nakanishi N, Kawahara Y, et al	看護部	Effects of Vibration Therapy on the Physical Function of Critically Ill Adults Trial: A Randomized Controlled Trial	CRIT CARE MED.2024 JUN:52(6):10	Original Article
172	Aota K, Kani K, Ono S, et al	口腔内科	Activation of Janus kinase 2 contributes to the autoimmune pathology in the salivary glands of patients with Sjögren's syndrome	ORAL SCI INT.2024 APR:21(3):10	Original Article
173	Akita K, Fukuda N, Takamaru N, et al	口腔外科	Fabrication of a carbonate apatite granules sponge as a new bone substitute and its histological evaluation at rat calvarial bone defects	J ORAL MAX SURG MED.2025 JAN:37(1):8	Original Article
174	Kamada K, Kurio N, Mouri Y, et al	口腔外科	Combination treatment with hyaluronic acid synthesis and Bcl-2 inhibitors induces senolytic elimination of oral squamous cell carcinoma cells in vitro	J ORAL MAX SURG MED.2025 MAR:37(2):8	Original Article
175	Ohmae H, Kondo S, Saito T, et al.	リハビリテーション部	Phase angle is a predictor of functional outcomes at discharge in patients with acute ischemic stroke	J Med Invest. 2025;72(1.2)	Original Article
176	Yamamoto Y, Fujita K, Yamazaki H, Haji S, Osaki Y, Izumi Y	脳神経内科	Constipation in patients with motor neuron disease: A retrospective longitudinal study	Heliyon 2024, 10(6), 227951	Original Article
177	Sasa S, Inoue H, Nakagawa M, et al.	食道・乳腺甲状腺外科	Long-Term Outcomes of S-1 Combined With Low-Dose Docetaxel as Neoadjuvant Chemotherapy (N-1 Study, Phase II Trial) in Patients With Operable Breast Cancer	Clin Breast Cancer. 24(5) : e350–e359, 2024	Original Article
178	Misaki M, Inoue S, Kawakita N, et al.	食道・乳腺甲状腺外科	Surgical outcomes of video-assisted neck surgery for papillary thyroid carcinoma	Surg Today. 55(1) : 29–35, 2025	Original Article
179	Sumitomo H, Toba H, Kawakita N, et al.	呼吸器外科	Dual indocyanine green fluorescence imaging for segmentectomy in pulmonary metastasis of hepatocellular carcinoma : a case report	Thorac Surg. 9 : 12 ,2024	Case report

180	Yoshida M, Tomita M, Kawakita N, et al.	呼吸器外科	Pulmonary adenocarcinoma in situ with morule – like components: A surgical case report	Respir Med Case Rep. 48 : 102008, 2024	Case report
181	Sakamoto S, Misaki M, Fujimoto K, et al.	呼吸器外科	Lenvatinib treatment strategy for thyroid carcinoma with malignant pleurisy: a case report	Gland Surg. 13(10) : 1846–1852, 2024	Case report
182	Kaori Nii, Hirokazu Ogino, Hiroki Bando, et al.	呼吸器・膠原病内科	Immune checkpoint inhibitor-associated paraneoplastic cerebellar degeneration in a case of extensive-stage small-cell lung cancer with pre- existing anti-SOX1 antibody.	J Med Invest. 2025;72(1.2):172–176.	Original Article
183	Yasuhiko Nishioka, Jun Araya, Yoshiya Tanaka ,et al.	呼吸器・膠原病内科	Pathological mechanisms and novel drug targets in fibrotic interstitial lung disease	nflamm Regen. 2024 Jul 19;44(1):34.	Original Article

計183件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367–9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	該当無し				
2					
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 1. 委員会規則（組織、申請手続き、審議、有害事象、実施状況報告、終了報告など会議等委員会運営に必要な事項）、2. 生命科学・医学系研究実施に係る標準業務について、3. 生命科学・医学系研究に関連する重篤な有害事象対応について、4. 研究者主導臨床研究でのモニタリング又は監査の受入れについて、5. 他の研究機関への既存試料・情報提供について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理規程（管理の概要、手続き及び方法、勧告及び監査）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 4 回
・ 研修の主な内容 外部の e ラーニング（CREDITS）で年 1 回の受講を必須としている。別途、臨床研究の倫理に関する話題も含めたセミナーについては、今後も年 1～2 回、またはそれ以上実施することとし、令和 6 年度は 2 回実施している。 別途、各科のクリニカルリサーチマネージャーを対象とした会議を不定期に実施しており、令和 6 年度は倫理に関する情報共有を 1 回実施している。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

## (様式第 4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## 1 研修の内容

(医師)

希望する診療領域に応じて卒後 3～6 年を目処に基本領域の専門医を取得した後、高度先進医療・先端医療を担うべくサブスペシャリティ領域の専門医取得を目指す。また、本人の希望により、並行して社会人大学院に在籍して医学博士号の取得や、臨床技術研鑽及び研究のための他施設（国内外）での研修も可能である。

(歯科医師)

希望する診療領域に応じて専門医、認定医を取得し、多様化する全身疾患に対応し得るよう、より高度で専門的な歯科治療に関する知識・技術等を身につけ、医療人として高い倫理観をもち、有能かつ誠実で信頼される歯科医師の養成を目指す。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

## 2 研修の実績

上記研修を受けた医師数

169人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
和泉唯信	内科	教授	30年	診療科長・プログラム責任者
佐田政隆	内科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
西岡安彦	内科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
高山哲治	内科	教授	39年	診療科長・プログラム責任者
脇野 修	内科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
松岡賢市	内科	教授	26年	診療科長・プログラム責任者
佐田政隆	循環器内科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
和泉唯信	脳神経内科	教授	30年	診療科長・プログラム責任者
高山哲治	消化器内科	教授	39年	診療科長・プログラム責任者
脇野 修	腎臓内科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
遠藤逸朗	内分泌・代謝内科	教授	33年	診療科長・プログラム責任者
松岡賢市	血液内科	教授	26年	診療科長・プログラム責任者
西岡安彦	呼吸器・膠原病内科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
秦 広樹	外科	教授	28年	診療科長・プログラム責任者
森根裕二	外科	准教授	28年	診療科長・プログラム責任者
滝沢宏光	外科	教授	29年	診療科長・プログラム責任者
森根裕二	消化器・移植外科	准教授	28年	診療科長・プログラム責任者
滝沢宏光	呼吸器外科	教授	29年	診療科長・プログラム責任者
後藤正和	食道・乳腺甲状腺外科	講師	21年	診療科長・プログラム責任者
石橋広樹	小児外科	病院教授	36年	診療科長・プログラム責任者
秦 広樹	心臓血管外科	教授	28年	診療科長・プログラム責任者
古川順也	泌尿器科	教授	25年	診療科長・プログラム責任者
西良浩一	整形外科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
高木康志	脳神経外科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
久保宜明	皮膚科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者

三田村佳典	眼科	教授	38年	診療科長・プログラム責任者
北村嘉章	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	26年	診療科長・プログラム責任者
原田雅史	放射線科	教授	39年	診療科長・プログラム責任者
岩佐 武	産科婦人科	教授	23年	診療科長・プログラム責任者
沼田周助	精神科神経科	教授	24年	診療科長・プログラム責任者
漆原真樹	小児科	教授	30年	診療科長・プログラム責任者
田中克哉	麻酔科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
橋本一郎	形成外科・美容外科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
大藤 純	救急集中治療科	教授	28年	診療部長・プログラム責任者
上原久典	病理診断科	教授	35年	診療部長・プログラム責任者
八木秀介	総合診療部	特任教授	27年	診療部長・プログラム責任者
松浦哲也	リハビリテーション科	教授	32年	診療部長・プログラム責任者
松香芳三	歯科	教授	37年	診療科長
田中栄二	矯正歯科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
岩崎智憲	小児歯科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
栗尾奈愛	歯科口腔外科	教授	22年	診療科長・プログラム責任者
北村直也	総合歯科診療部	教授	27年	診療科長・プログラム責任者
保坂啓一	むし歯科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
湯本浩通	歯周病科	教授	33年	診療科長・プログラム責任者
青田桂子	口腔内科	病院教授	28年	診療科長・プログラム責任者
渡邊 恵	そしゃく科	教授	25年	診療科長・プログラム責任者
松香芳三	かみあわせ補綴科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
前田直樹	歯科放射線科	講師	36年	診療科長・プログラム責任者
川人伸次	歯科麻酔科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
友竹偉則	口腔インプラントセンター	病院教授	32年	診療部長・プログラム責任者

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。



(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

1) 看護師特定行為研修（指定研修機関）

・研修の主な内容：特定行為研修を行う場合に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能を有する特定看護師を育成するために、共通して学ぶ「共通科目」と特定行為区分ごとに学ぶ「区分別科目」に分かれて、講義、演習、実習を行う。

・研修期間：令和6年4月～令和7年3月

・研修の参加人数：1名が8行為の研修を修了

術中麻酔管理領域パッケージ（8行為）1名

2) 院内認定コース

・研修の主な内容：ミドルレベル看護師を対象に、専門的領域のスキルアップを目指して年間を通じたコース研修を開講（全4コース：①リスク管理、②糖尿病、③褥瘡看護、④摂食嚥下障害看護）

・研修の期間・実施回数：令和6年6月～令和7年3月  
各コース17～25回（全89回）の研修を開催

・研修の参加人数：延べ399名が参加  
16名がコース研修修了し、病院長より「院内認定看護師」の認定を受ける。

3) 院内認定フォローアップ研修

・研修の期間・実施回数：院内認定コース修了者を対象にフォローアップ研修（全16コース、上記4コースに加え⑤がん化学療法看護、⑥緩和ケア、⑦乳がん看護、⑧がん放射線療法看護、⑨感染管理、⑩集中ケア、⑪新生児集中ケア、⑫脳卒中リハビリテーション看護、⑬手術看護、⑭CRC、⑮認知症看護、⑯エキスパート助産師）を年1回以上開催。  
研修回数は全31回

・研修の参加人数：延べ165名

4) 医療専門職部門キャリア形成支援研修会

・研修の期間・実施回数：令和6年4月～令和7年3月 ・12回

・研修の参加人数：181人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の主な内容</li> <li>・研修の期間・実施回数</li> <li>・研修の参加人数</li> </ul> <p>1) 退院支援看護師養成コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の主な内容：入院時から退院支援を円滑に実施できる看護師を養成するためのコース研修を開催</li> <li>・研修の期間・実施回数：令和6年7月～令和7年3月 研修回数は17回</li> <li>・研修の参加人数：延べ110名。4名がコース研修を修了し、病院長より「退院支援看護師」の認定を受ける。</li> </ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>1) 看護師特定行為研修（指定研修機関）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修期間：令和6年4月～令和7年3月</li> <li>・研修の参加人数：徳島県内の急性期病院3施設（徳島県立中央病院、吉野川医療センター、田岡病院）、香川県の急性期病院1施設（香川大学医学部附属病院）より全5名の看護師を新たに受け入れ、5名が術中麻酔管理領域パッケージ、創傷管理コース、血糖管理コースをはじめとする全15行為の研修を修了。令和5年度から研修を開始し、令和6年度も継続受講していた1名は、令和5年度に1行為、令和6年度に4行為、全5行為の研修を修了。</li> </ul> <p>2) 医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、歯科衛生士等の免許を有する者を徳島大学病院の当該部署において研修させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の期間・実施回数（延べ日数）・研修の参加人数 <ul style="list-style-type: none"> <li>（医師）令和6年7月～令和6年12月 ・16日 ・2名</li> <li>（准看護師）令和6年4月～令和7年3月 ・49日 ・2名</li> <li>（臨床検査技師）令和6年4月～令和7年3月 ・398日 ・10名</li> <li>（診療放射線技師）令和6年4月～令和7年3月 ・12日 ・1名</li> <li>（歯科衛生士）令和6年4月～令和7年3月 ・12日 ・3名</li> </ul> </li> </ul>

（注）1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長 西良 浩一	
管理担当者氏名	総務課長 児玉 実和 経理調達課長 原井 由美 医事課長 安部 修司 薬剤部長 石澤 啓介 看護部長 上田 美香 医療技術部長 中尾 隆之 病院情報センター部長 若田 好史 手術部長 滝沢 宏光 放射線部長 原田 雅史 ME管理センター長 大藤 純	

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科（部）
		処方せん	病院情報システム
		手術記録	病院情報システム
		看護記録	病院情報システム
		検査所見記録	病院情報システム
		エックス線写真	病院情報システム
		紹介状	病院情報システム
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院情報システム
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	文書ファイルで保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医事課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 医事課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME管理センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME管理センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME管理センター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME管理センター	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課 医事課
		職員研修の実施状況	医事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課 医事課
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画      ② 現状
閲覧責任者氏名	事務部長 浦田 明宏
閲覧担当者氏名	総務課長 兒玉 実和
閲覧の求めに応じる場所	・総務課
閲覧の手続の概要	
閲覧請求を申請する者は、事前に担当部署に申請を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0	件
閲 覧 者 別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	①・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>徳島大学病院（以下「本院」という。）の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療（最先端医療を含む）を提供することにある。そのためには、医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。</p> <p>特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができる環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 用語の定義</li> <li>2 安全管理に関する基本的考え方</li> <li>3 医療に係る安全管理のための取組に関する基本事項</li> <li>4 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針</li> <li>5 医療上の事故等の報告に関する基本方針</li> <li>6 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>7 患者等からの相談及び苦情等への対応に関する基本方針</li> <li>8 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>9 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <p>・ 設置の有無（ ①・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>リスクマネジメント委員会（毎月原則1回）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療上の事故等防止のための安全管理の方策に関すること。</li> <li>2 医療上の事故等発生時の対応に関すること。</li> <li>3 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品、未承認新規医療機器を用いた医療の提供に関すること。</li> <li>4 医薬品及び医療機器の安全使用に関すること。</li> <li>5 その他医療上の事故等に関すること。</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年5回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>令和6年度</p> <p>第1回安全管理研修会「医療事故調査制度 ～10年を迎えた現況とご家族の声～」</p> <p>第2回安全管理研修会「除細動器の安全管理」</p> <p>第3回安全管理研修会「医薬品の副作用報告制度と救済制度」</p> <p>第4回安全管理研修会「輸血療法の基礎と臨床 ～安全安心な輸血医療の提供を目指して～」</p> <p>第5回安全管理研修会「院内で知って欲しい歯科外来の安全管理」</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( ☒ 有 ・ ☐ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

事故報告に関しては、「徳島大学病院インシデント等発生時の報告に関する取扱要項」を定め、「インシデント報告システム」により各部署から報告される。報告されたインシデントは、インシデントレポートや安全管理部員による現場確認及び当事者等への事情聴取により確認され、安全管理部内に置かれた分析班において、改善策を検討する。その後、これらの改善策をリスクマネジメント委員会で審議した上、リスクマネージャー連絡会で各部署へフィードバックする。

また、現場での状況等を確認する必要があると認められるインシデントについては、改めて検証班によるラウンドを行い、改善策を検討する。

さらに、改善策の実施状況を把握する必要があると認められるインシデントについては、検証班からリスクマネージャー連絡会でのフィードバックを繰り返し行う。(PDCA手法を取り入れている。)

分析方法については、警鐘的な事例や、インシデントが多部署にわたる事例、また、全国的に頻発している事例などを選び、1～2事例、SHELL分析にて毎月分析をしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>徳島大学病院（以下「本院」という。）の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療（最先端医療を含む）を提供することにある。 そのためには医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。</p> <p>特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができる環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 用語の定義</li> <li>2 安全管理に関する基本的考え方</li> <li>3 医療に係る安全管理のための取組に関する基本的事項</li> <li>4 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針</li> <li>5 医療上の事故等の報告に関する基本方針</li> <li>6 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>7 患者等からの相談及び苦情等への対応に関する基本方針</li> <li>8 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>9 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol> <p>※「医療に係る安全管理のための指針」及び「院内感染対策のための指針」として、「徳島大学病院における医療に係る安全管理のための指針」を定めており、本指針において「安全管理等」の「等」に院内感染予防を含むと定義している。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 6 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 院内感染の予防及び対策に関すること。</li> <li>2 院内感染防止の実施、監視及び指導に関すること。</li> <li>3 院内感染発生時の措置に関すること。</li> <li>4 職員の院内感染の教育に関すること。</li> <li>5 感染制御部の運営に関すること。</li> <li>6 その他院内感染に関すること。</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>第 1 回 ・ 抗菌薬適正使用について ・ 「血液培養促進 in 2024」と「カテーテル関連血流感染予防策」について</p> <p>第 2 回 ・ 標準予防策・注意すべき感染症 ーインフルエンザ、COVID-19、感染性胃腸炎、マイコプラズマ肺炎ー ・ 抗菌薬適正使用につなげる診断支援</p>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( ☒ 有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - 1 毎週 1 回、ICTラウンドを計画的に実施、改善点を部署にフィードバックし、更にICNラウンドで確認している。
  - 2 抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬について届出制を実施し、適正使用について週 1 回程度検討している。
  - 3 HIVチームカンファレンスを実施し、2ヶ月に 1 回開催しているHIV/エイズ小委員会で院内のHIV症例の事例検討や検査結果の報告をしている。
  - 4 職業感染対策として、全職員の抗体の有無を把握している。針刺し等防止対策としては、曝露者の面接をすべての事例で行い、改善策を共に検討し、共有している。
  - 5 ICUでのBSIサーベイランス、食道手術のSSIサーベイランスを実施している。
  - 6 教育体制として、
    - ①感染対策研修会      ②研修医研修      ③看護師研修（新人）      ④新規採用者研修
    - ⑤中途採用者研修（e-Learning）      ⑥育休復帰者研修      ⑦看護補助者研修
    - ⑧メディカルクラーク研修      ⑨清掃担当者研修に分けて計画している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>○当院における医薬品安全管理体制について <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品安全管理責任者の配置</li> <li>・医薬品安全管理業務手順書</li> <li>・医薬品安全使用のための職員研修</li> <li>・未承認等の医薬品に関わる体制</li> </ul> </li> <li>○処方、医薬品管理の注意点について <ul style="list-style-type: none"> <li>・類似名称、外観類似医薬品の取り扱い注意</li> <li>・麻薬、覚醒剤原料、向精神薬、毒薬、特定生物由来製品等の管理方法</li> <li>・ハイリスク薬について</li> </ul> </li> <li>○医薬品安全性情報（緊急安全性情報、安全性速報）について</li> <li>○副作用報告制度について</li> <li>○医薬品情報管理室からのDI情報等の提供について</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>手順書の作成（有・無）</li> <li>手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>病棟での与薬や薬剤管理など、医薬品に関わる業務の実施状況を確認し、その結果をフィードバックすることで、業務改善に取り組んでいる。</li> </ul> </li> </ul>
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品に係る情報の収集の整備（有・無）</li> <li>未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</li> </ul> <p>【医薬品】エトポシド点滴静注液100mg  【使用区分】禁忌・適応外使用  【対象患者】悪性リンパ腫、縦隔原発大細胞型B細胞リンパ腫に罹患している妊婦  【使用方法】  リツキシマブ 375mg/m<sup>2</sup> day1、エトポシド 50mg/m<sup>2</sup> day1-4、ドキシソルビシン 10mg/m<sup>2</sup> day1-4、ビンクリスチン 0.4mg/m<sup>2</sup> day1-4、シクロホスファミド 750mg/m<sup>2</sup> day5、プレドニゾロン 60mg/m<sup>2</sup> day1-5</p> <p>【使用目的】  縦隔原発大細胞型B細胞リンパ腫に対して、DA-EPOCH-R療法の有効性が報告されている。DA-EPOCH-R療法は、妊娠17週以降に投与した場合、発育遅延、汎血球減少の危険性があり、エトポシドは添付文書上禁忌である。本症例は妊娠16週に縦隔腫瘍が発見され、診断途中に心肺停止となるが蘇生された。その後、R-CHOP療法1コースを施行するも再燃しており、母体の救命のためにはエトポシドを用いたがん薬物療法が必要である。有益性が危険性を上回ると判断される。</p> <p>【有害事象の把握方法】  血液一般検査、凝固機能検査</p>

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

全病棟に薬剤師を配置し、持参薬を含めた医薬品の管理体制を構築している。

院内で発生した副作用やインシデント内容を週1回の薬剤部カンファレンスで薬剤部職員に周知している。

医薬品を適応外使用する場合の院内規定を設けている。院内の適応外使用の状況を把握し、医薬品安全管理責任者から安全管理部・リスクマネジメント委員会への報告、必要性等の確認、情報共有及び診療科長等を介した必要な指導等を行う体制を構築している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 5 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 新しい医療機器の導入時の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用した経験のない新しい医療機器を導入する際には、当該医療機器を使用する予定の医療従事者に対する研修会を実施し、その記録を保存している。</li> <li>・ 令和 6 年度における新しい医療機器を導入する際に開催した研修会は、医療機器 19 機種に対して、計 29 回（参加人数：258 名）実施した。</li> </ul> <p>(2) 特定機能病院における医療機器研修（院内研修会）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定機能病院として、特に安全使用に際しての技術の習熟が必要と考えられる医療機器については、研修会を実施し、その記録を保存している。</li> <li>・ 令和 6 年度新規採用者オリエンテーション（対象：医師、看護師）にて、医療機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ）の研修会（開催回数：2 回、参加人数：82 名）を実施し、正しい操作方法を身に付け、インシデントを予防するためのポイントを学ぶことを目的に実技研修も取り入れている。</li> <li>・ 各病棟（東病棟、西病棟、中央診療棟）、外来などの各部署から個別依頼された医療機器の研修会は不定期（要望依頼時）に実施している。令和 6 年度は 13 回開催し、134 名に機器の概要と適切な使用方法について説明している。</li> <li>・ 令和 6 年度に実施した特定保守管理装置の研修は除細動装置、人工呼吸器（ネーザルハイフロー等含む）、人工心肺・補助循環装置（ECMO、IABP、Impella）血液浄化療装置、閉鎖式保育器に関して計 10 回（参加人数：181 名）実施した。医療機器の研修会については、臨床工学技士または医療機器製造販売メーカー担当者が医療機器の正しい操作方法、またはトラブルシューティングなどについて説明している。</li> <li>・ 医療機器安全研修会においては、除細動装置の安全管理に関して開催し、72 名が参加している。</li> </ul> <p>(3) 特定機能病院における医療機器研修（院外研修会）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 6 年度における医療機器の研修（対象：臨床工学技士）では、院外研修会（開催方法：WEB研修会、eラーニング）は計 8 回（参加 75 名）であった。</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (①・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>主な医療機器（①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器、③血液浄化装置、④除細動装置、⑤閉鎖式保育器、⑥X線CT装置、⑦診療用高エネルギー放射線発生装置、⑧診療用放射線照射装置、⑨MRI装置等）の保守点検に関する計画の策定及び、保守点検を実施している。</p> <p>具体的には、医療機器製造販売メーカーの指定期間（使用年数または使用時間）により、プリベンティブメンテナンスや機器のオーバー・ホールを各メーカーへ依頼し、実施している。</p>	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集  
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ☒ 有 ・ 無 )
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) :

使用事例なし

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

・ 医療機器の添付文書及び独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の医療機器安全性情報サービスに登録し、情報を収集している。また、直接、医療機器製造販売メーカーから不具合情報や安全情報を得ている。収集した医療機器に関連した不具合情報や安全情報、情報の性質や内容により異なるが、使用者 (医療従事者) や内容が特定の部署に限定される場合には、個別必要部署のみに周知し、多くのスタッフが知る必要がある場合には、安全管理部等を通じて院内に周知している。

・ 医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き (2021年7月30日改訂、電波環境協議会、総務省) を参考にして、令和3年12月より、各病棟等にて使用されている医用テレメータ (ベッドサイドモニター、送信機) のチャンネル管理及びゾーン管理ができる医療機器保守管理システムを新たに導入し、運用を開始している。

また、当センターのスタッフが院内の電波コーディネータとして医用電波管理に携わっている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	①・無
<p>・責任者の資格 (医師)・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>平成28年9月に「徳島大学病院における医療に関する安全管理規則」の改正を行い、平成28年10月1日から医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理担当の副病院長をもって充てている。 また、同規則にて、医療安全管理責任者が安全管理部、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する規定を定めている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	② ( 8名 ) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 緊急安全性情報・安全性速報等の医薬品情報を収集及び整理し、医療スタッフへ情報提供できる体制を構築している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 薬剤部内に医薬品の安全管理を担う担当者（薬剤部安全管理担当者）を定めるとともに、未承認等の医薬品に関する使用状況の把握、必要性等の確認、情報の共有および診療科長等を介した必要な指導等を行う体制を整えている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有)・無)</p> <p>・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 、職種 薬剤師 )</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	④・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( 有 ) ・無 )</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 平成28年9月に「徳島大学病院における医療に関する安全管理規則」の改正を行い、平成28年10月1日からインフォームドコンセント責任者を置き、インフォームドコンセントガイドラインの管理・周知徹底、適切な実施及び指導等の業務を行う規定を定めた。 インフォームドコンセントガイドラインの主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 目的</li> <li>2 対象</li> <li>3 説明して同意を得る手順 <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が説明し、誰が立ち会うのか</li> <li>・どこで行うのか</li> <li>・記録と保管</li> <li>・説明と同意</li> </ul> </li> </ol>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録等の管理に関する責任者の選任にあたっては、徳島大学病院診療録管理規則により、本院の医療支援センター長を診療録管理責任者として充てている。</p> <p>診療録管理責任者は、診療録の記載内容を確認し、診療録の適切な管理を行うものとしている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員：専従（４）名、専任（１）名、兼任（７）名</p> <p>うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（０）名</p> <p>うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（０）名</p> <p>うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（０）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>（１）本院において発生した医療上の事故等の原因究明、調査、分析及び対策の検討並びに当該医療上の事故等の再発防止に関すること。</p> <p>（２）事故等に関する診療録及び看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関すること。</p> <p>（３）患者及び家族への説明等事故発生時の対応状況についての確認及び指導に関すること。</p> <p>（４）医療上の事故等の防止に関する教育及び研修の企画及び実施に関すること。</p> <p>（５）医療上の事故等の防止に関する情報の収集及び提供に関すること。</p> <p>（６）医療上の事故防止安全対策マニュアルの改訂に関すること。</p> <p>（７）インシデント報告の管理に関すること。</p> <p>（８）リスクマネジメント委員会で用いられる資料及び議事要録の作成及び保存、その他リスクマネジメント委員会の庶務に関すること。</p> <p>（９）医療安全に係る連絡調整に関すること。</p> <p>（１０）医薬品の安全使用に係る連絡調整に関すること。</p> <p>（１１）医療機器の安全使用に係る連絡調整に関すること。</p> <p>・ 平時からのモニタリングの具体例：</p> <p>安全管理部看護師が質問内容を検討した上で、「安全確保状況報告書」として各所属から１人ずつ選出されたリスクマネージャーに回答を依頼し、集計結果をリスクマネージャー連絡会にてフィードバックしている。</p> <p>また、分析班にて検討した対策についての対応状況についても、併せて回答を依頼している。</p> <p>・ 分析班にて対策を検討した主なインシデント</p> <p>（１）医薬品の過剰・過少投与</p> <p>（２）患者名、薬剤名の記載間違い</p> <p>（３）検体ラベル貼り間違い</p> <p>（４）アレルギー食の提供</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	



※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（１０件）、及び許可件数（１０件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・ 活動の主な内容：
  - ①高難度新規医療技術又は未承認新規医療機器を用いた医療の提供についての審査に関すること。
  - ②高難度新規医療技術等を用いた医療実施後の症例報告の検証に関すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（１１件）、及び許可件数（９件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・ 活動の主な内容：
  - ①未承認新規医薬品を用いた医療の提供についての審査に関すること。
  - ②未承認新規医薬品を用いた医療の提供後の報告に関すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年２２２件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年９７件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容  
全死亡事例を管理者へ報告しており、予期せぬものであったか、蘇生処置などの家族への説明、AI/病理解剖の有無など、特記すべき事項について情報共有を行っている。また、重大と考えられる事例については症例検討を個別に行い、必要があれば管理者の判断のもと、医療事故調査・支援センターへ報告し、院内事故調査委員会を立ち上げる。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（**有**（病院名：京都府立医科大学）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（**有**（病院名：和歌山県立医科大学）・無）
- ・技術的助言の実施状況

【技術的助言】

① 医療安全・有害事象の検討

- ・入院中の死亡は完全に把握、分析できているが、転院後に死亡した事例把握が困難であり、診療科の報告に依存していた。転院後は、治療に起因した死亡かどうかの判断は困難になるため、診療科と密に連携をして、報告の重要性を共有していただきたい。

② 医薬品・未承認新規医薬品等

- ・体制として、未承認医薬品・適応外・禁忌の医薬品を管理する担当部門と申請内容を評価する評価委員会が分かれておらず、一体となっている。医療法にも記載されている通り、担当部門と評価委員会は別の組織とすることが望ましい（高難度新規医療技術の担当部門と評価委員会も同じ）。
- ・レジメンに含まれる抗がん薬が適応外使用であった場合、未承認医薬品等担当部門ではなく、レジメン管理委員会で審査されることになっている。その体制自体は問題ないが、説明文書で、適応外使用であることの説明（国内では承認されていない使用法であり、適応外使用にあたること、有効性は確証されていないこと、副作用被害救済制度が使用できない可能性があることなど）が記載されているか、未承認医薬品等担当部門あるいはIC評価委員会などが確認することが必要。

③ 高難度新規医療技術

- ・高難度に相当する技術である可能性があることを、当該診療科以外から担当部門に報告する仕組みがない点については、手術室、内視鏡室、カテーテル室といった各部門の看護師長等に協力を依頼し、報告いただける仕組みの構築を検討いただいてもいいのではないかと考える。
- また、評価委員会のメンバーとして医療者のみではなく非医療者を含めることで、より患者目線からの評価を行う体制を構築することも必要ではないかと考える。

【実施状況】

① 特に実施しているものはなし。

② 担当部門と評価委員会の件については、組織改編を行い、別の組織となっている。

レジメンの件については特に実施しているものはない。

③ 特に実施しているものはない。

<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <p>・体制の確保状況</p> <p>院内の患者相談は全て患者支援センターを窓口としており、患者から分かりやすい場所に立地している。当該センターで受け付けた安全管理に係る相談は、その内容に応じて、医療安全管理部門など適切な専門の担当部署に振り分け、患者支援センターの相談員と協働して相談に対応する。また、患者相談の内容と対応状況は、患者支援センター内の会議（実務者会議）で報告され、必要と判断された場合は病院長へ報告するものとしている。</p>
<p>⑫ 職員研修の実施状況</p> <p>・研修の実施状況</p> <p>現在行われている医療に係る安全管理及び医薬品等の安全使用のための研修において、必ず実施すべき研修項目を追加する。また、e-learning を活用したテスト等により、学習効果測定を実施する。</p> <p>（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）</p>
<p>⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況</p> <p>・研修の実施状況</p> <p>毎年、安全管理研修会を院内において実施し、管理者をはじめ、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が必ず受講している。</p> <p>また、令和6年度は管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、それぞれ日本医療機能評価機構主催の特定機能病院管理者研修に参加した。</p> <p>（注）前年度の実績を記載すること</p>
<p>⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況</p> <p>・第三者による評価の受審状況</p> <p>・ISO9001</p> <p>一般社団法人日本能率協会審査登録センター</p> <p>登録日：2002年12月18日</p> <p>登録有効期限：2026年12月17日</p>

- ・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

公表すべき事項は該当なし

- ・ 評価を踏まえ講じた措置

業務手順の見直し及び周知

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>基準の主な内容 徳島大学病院長選考規則により、病院長は以下の要件を満たす者とされている。                (1) 医師法（昭和23年法律第201号）に基づき医師免許証を交付された医師である者                (2) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者                (3) 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者                なお、具体的事項は、徳島大学病院長選考委員会が策定した選考基準案に基づき、大学役員会の議を経て選考基準を決定し、公表する。             </li> <li>基準に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>公表の方法 Web上にて公表</li> </ul>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				<input checked="" type="radio"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>選考を実施した場合、委員会の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>公表の方法：徳島大学、徳島大学病院のホームページにて公表</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
河野 文昭	徳島大学	○	徳島大学病院長候補者選考委員会規則第2条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	<input checked="" type="radio"/> 有・無
松木 均	徳島大学		徳島大学病院長候補者選考委員会規則第2条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	<input checked="" type="radio"/> 有・無
西岡 安彦	徳島大学		徳島大学病院長候補者選考委員会規則第2条第1項第2号に基づく役職指定（医学部長）	<input checked="" type="radio"/> 有・無

馬場 麻人	徳島大学		徳島大学病院長候補者選考委員会規則第2条第1項第3号に基づく役職指定（歯学部長）	有・無
森 恭子	徳島県看護協会		徳島大学病院長候補者選考委員会規則第2条第1項第4号に基づき学長が委嘱した学外有識者（徳島県の看護について、豊富な知見を有している）	有・無
齋藤 義郎	徳島県医師会		徳島大学病院長候補者選考委員会規則第2条第1項第4号に基づき学長が委嘱した学外有識者（徳島県の保健、医療について、豊富な経験と高い識見を有している）	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の  
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		<input checked="" type="radio"/> 有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容 徳島大学病院運営会議規則により、本院の管理運営に関する以下の事項を審議する。 (1) 本院の運営方針に関すること (2) 中期目標・中期計画等に関すること (3) 予算及び決算に関すること (4) その他本院の管理運営に関する重要事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 審議の概要は、診療科連絡会において全部署のスタッフに周知が図られる。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/>有・無 )</p> <p>・公表の方法 Web上にて公表</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 ( <input checked="" type="radio"/>有・無 )</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
西良 浩一	○	医師	病院長
原田 雅史		医師	副病院長 (総務担当)
滝沢 宏光		医師	副病院長 (診療担当)
川人 伸次		歯科医師	副病院長 (歯科担当)
高木 康志		医師	副病院長 (医療安全管理担当)
上田 美香		看護師	副病院長 (看護担当)
脇野 修		医師	病院長補佐 (キャリア 支援・地域連携担当)
大藤 純		医師	病院長補佐 (救急・災害・メディ カルゾーン担当)
池本 哲也		医師	病院長補佐 (リスクマ ネジメント・医療の質 担当)
和泉 唯信		医師	病院長補佐 (アカデミ ア推進担当)

田中 克哉		医師	病院長補佐（タスクシフト・タスクシェア担当）
沼田 周助		医師	病院長補佐（労働環境・イノベーション担当）
高山 哲治		医師	病院長補佐（経営戦略・企画担当）
若田 好史		医師	病院長補佐（医療DX担当）
松香 芳三		歯科医師	病院長補佐（医歯連携担当）
石澤 啓介		薬剤師	病院長補佐（医薬品安全管理・研究支援担当）
中尾 隆之		技師	病院長補佐（医療支援担当）
近藤 武		外部有識者	病院長補佐（経営担当）
浦田 明宏		事務	病院長補佐（事務担当）
松浦 哲也		医師	リハビリテーション部
上原 久典		医師	病理診断科
坂東 良美		医師	病理診断科
板垣 大雅		医師	ER・災害医療診療部
徳永 卓哉		医師	地域外科診療部
酒井 陽子		医師	麻酔科診療部
早渕 康信		医師	地域小児科診療部
酒井 紀典		医師	高度先進整形外科診療部
佐田 政隆		医師	内科（循環器内科）
西岡 安彦		医師	内科（呼吸器・膠原病内科）
遠藤 逸朗		医師	内科（内分泌・代謝内科）
松岡 賢市		医師	内科（血液内科）
秦 広樹		医師	外科（心臓血管外科）
後藤 正和		医師	外科（食道・乳腺甲状腺外科）
古川 順也		医師	外科（泌尿器科）
森根 裕二		医師	外科（消化器・移植外科）
石橋 広樹		医師	外科（小児外科・小児内視鏡外科）
三田村 佳典		医師	感覚・皮膚・運動機能科（眼科）



北村 嘉章		医師	感覚・皮膚・運動機能科（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
久保 宜明		医師	感覚・皮膚・運動機能科（皮膚科）
橋本 一郎		医師	感覚・皮膚・運動機能科（形成外科）
漆原 真樹		医師	小児・周産・女性科（小児科）
岩佐 武		医師	小児・周産・女性科（産科婦人科）
生島 仁史		医師	放射線治療科
保坂 啓一		歯科医師	歯科（むし歯科）
湯本 浩通		歯科医師	歯科（歯周病科）
渡邊 恵		歯科医師	歯科（そしやく科）
前田 直樹		歯科医師	歯科（歯科放射線科）
田中 栄二		歯科医師	矯正歯科（矯正歯科）
岩崎 智憲		歯科医師	小児歯科（小児歯科）
青田 桂子		歯科医師	歯科口腔外科（口腔内科）
栗尾 奈愛		歯科医師	歯科口腔外科（口腔外科）
三木 浩和		医師	輸血・細胞治療部
北村 直也		歯科医師	総合歯科診療部
加地 剛		医師	周産母子センター
高橋 章		医師	栄養部長
竹谷 豊		教員	臨床食管理学
奥田 紀久子		看護師	学校保健学
片岡 宏介		歯科医師	口腔保健福祉学
松久 宗英		医師	糖尿病臨床・研究開発センター
八木 秀介		医師	総合診療部
細木 眞紀		歯科医師	歯科（かみあわせ補綴科）

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）
- ・ 公表の方法  
Web上にて公表
- ・ 規程の主な内容  
（徳島大学病院規則）
  - ・ 病院長は、本院の業務を統轄し、職員を監督するとともに、教育研究、診療及び経営に従事し、かつ、管理運営をつかさどる。
  - ・ 病院長は、本院を代表し、その責任者となる。
- （徳島大学病院の院内組織に関する内規）
  - ・ 各診療科に診療科長及び副診療科長を置く。
  - ・ 診療科長は、当該診療科を担当する教授、准教授又は講師のうちから病院長が任命する。
  - ・ 病院長は、前条の診療科長が次の各号のいずれかに該当する場合は、病院運営会議の議を経て、診療科長を解任することができる。
    - （1） 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。
    - （2） 職務上の義務違反があるとき。
    - （3） その他診療科長たるに適しないと認めるとき。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - ・ 副病院長 5 名（総務、診療、歯科、医療安全管理、看護）
  - ・ 副病院長は、病院長の命を受けて、特定の事項を担当する。
  - ・ 病院長補佐 13 名（キャリア支援・地域連携、救急・災害・メディカルゾーン、リスクマネジメント・医療の質、アカデミア推進、タスクシフト・タスクシェア、労働環境・イノベーション、経営戦略・企画、医療DX、医歯連携、医薬品安全管理・研究支援、医療支援、経営、事務）
  - ・ 病院長補佐は、病院長の職務を補佐する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
管理者向けの研修に参加させている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況				<input checked="" type="radio"/> 有・無	
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>    次の事項を審議する。</p> <p>        1  病院の医療安全に係る業務遂行の状況に対する監査に関すること。</p> <p>        2  安全管理状況及び改善状況に関すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無）</p> <p>・ 公表の方法：徳島大学、徳島大学病院のホームページにて公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三宅 秀則	徳島市病院局 ・ 病院事業管 理者	○	医療に係る安全 管理に関する識 見を有するため	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
柴谷 亮	柴谷法律事務 所・弁護士		法律に関する識 見を有するため	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
上田 伊佐子	徳島文理大学 保健福祉学部 ・ 教授		医療安全管理に ついての知識を 有し、医療等の内 容及び説明並び に同意文書が一 般的に理解でき る内容であるか 等、医療を受ける 者の立場から意 見を述べること ができる者（学識 経験を有する者）	有 <input checked="" type="radio"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
  3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

徳島大学監査室において、病院も含めた全学の業務方法書、規則等の整備状況及び実施状況、中期計画に基づく組織及び制度全般の運営状況等について監査を行っている。

また、コンプライアンス事案を把握した場合は、「国立大学法人徳島大学におけるコンプライアンスの推進に関する規則」に基づき、調査を行う。なお、本規則に関する事務は、法人運営部総務課において行う。

・ 専門部署の設置の有無 ( ☒ 有 ・ ☐ 無 )

・ 内部規程の整備の有無 ( ☒ 有 ・ ☐ 無 )

・ 内部規程の公表の有無 ( ☒ 有 ・ ☐ 無 )

・ 公表の方法

Web上にて公表

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 開設者（学長）が議長を務める徳島大学経営協議会をもって充てることとし、病院長は陪席者として参加し、病院の経営に関する事項について審議を行うこととしている。</li> <li>・ 会議体の実施状況（ 4 回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 ）（ 4 回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 ）</li> <li>・ 公表の方法 Web上にて公表</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害関係
植田 貴世子	株式会社クラッシー代表取締役		有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
北畑 洋	徳島県病院事業管理者		有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
後藤田 正純	徳島県知事		有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
長岡 奨	株式会社阿波銀行 取締役会長		有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
中村 晃子	健祥会グループ常務理事		有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
結城 章夫	学校法人富沢学園理事長 （元国立大学法人山形大学長）		有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
米田 豊彦	一般社団法人徳島新聞社 相談役		有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
河村 保彦	学長	○	有 ・ 無
河野 文昭	理事（教育担当）・副学長		有 ・ 無
松木 均	理事（研究担当）・副学長		有 ・ 無
藤本 真路	理事（地域担当）・副学長		有 ・ 無
田中 賢一	理事（財務担当）・副学長・ 事務局長		有 ・ 無
香美 祥二	理事（労務担当）・副学長		有 ・ 無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合  
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li><li>・ 通報件数（年〇件）</li><li>・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li><li>・ 周知の方法 徳島大学のホームページにて周知、院内各部署に通知</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>1) 病院ホームページ及びSNSへの掲載</p> <p>2) 広報誌：①病院概要</p> <p>②徳大病院だより “いきいきらいふ” 年 4 回発行（5,000部×4回）</p> <p>③徳大病院ニュース “SiDE YOU” 年 2 回発行（7,000部×2回）</p> <p>3) 市民公開講座（徳島大学病院フォーラム）年 1 回開催</p> <p>4) 大学定例記者会見における発表</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>・ がん診療連携センター</p> <p>都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、複数の診療科と県内 3 ヶ所の地域がん診療連携拠点病院及び他の様々な医療機関と連携して、県内のがんの診断・治療の向上のみならず、がん医療の相談支援、情報提供、地域連携及び均てん化を図る中心的な役割を果たしている。</p> <p>本センターは、がん研究・研修部門、がん登録部門、がん診療連携・相談部門、がん診療企画部門、がん化学療法部門、がん緩和・こころのケア部門、がんゲノム医療部門の 7 つの部門から構成されている。医師、看護師、薬剤師、技師、心理士、事務職員がそれぞれ高い志の下に連携し、最新の診断・治療機器や高度な治療技術を駆使した横断的な医療の実践のみならず、看護、研究、啓発、情報発信、人材育成まで含めた幅広い分野でがんと闘う組織を整備している。</p> <p>・ 医科と歯科の連携</p> <p>医科入院患者及び I C U 患者、手術・放射線・化学療法前患者に対して口腔管理センター・口腔内科が窓口となって口腔ケアを実施している。さらに、特定の診療科（精神科神経科、心臓血管外科、消化器・移植外科）に特化した口腔ケア体制を構築している。</p> <p>・ 耳鼻科と歯科の連携</p> <p>摂食・嚥下リハビリテーションを必要とする入院患者に対して、リハビリテーション部医師、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師、歯科医師、言語聴覚士が連携し、カンファレンスを継続して実施している。また、診断の際に必要となる V E（嚥下内視鏡検査）の診断について、耳鼻咽喉科・頭頸部外科と協力して実施している。</p> <p>・ 形成外科と矯正歯科の連携</p> <p>口蓋裂患者及び顎変形症患者のチーム診療を行うため、カンファレンスを定期的を実施し、口蓋裂患者、顎変形症患者の口腔外科及び矯正歯科と形成外科・美容外科間の診療ネットワークを構築している。</p>	